

南国暮らしの会

2017年 春季号



NO.1533 森川 文枝氏提供 イタリア・ベネチアへの入港



NPO法人 南国暮らしの会

平成29年5月12日

南国暮らしの会 (2017年 春季号) 目次

平成 29 年度総会案内

(敬称略)

平成 29 年度 (第 20 期) 南国暮らしの会総会のご案内	No. 434	大野 悦子	1
平成 28 年度事業報告書	No. 434	大野 悦子	3
平成 28 年度 特定非営利活動に係る事業の会計 収支計算書			13
平成 28 年度 特定非営利活動に係る事業の会計 貸借対照表			14
監査報告書			15
平成 29 年度事業計画書 (案)			16
平成 29 年度特定非営利活動に係わる会計収支予算書案			17

会員からの投稿 I

フィリピン・ダバオロングステイ体験記	No. 1652	佐々木五十四	18
アメリカ西部絶景巡り (ビジネスクラスに搭乗して)	No. 1437	金澤 公平	23
東地中海クルーズ「初めての船旅」	No. 1763	小西 隆司	25
ホストファミリー奮闘記	No. 1572	武富千津子	30
ミャンマーの暮らし	No. 40	平澤 信	36
私のロングステイ	No. 1386	稲富 惇浩	41

南国写真サロン

45

会員からの投稿 II

ニュージーランド一周 3,000 キロドライブ	No. 742	池田 邦彦	47
フィリピン最後の秘境パラワン島を旅して	No. 1461	花田日出夫	49

お役立ち情報

ASEAN の医療制度とセルフケア JCHO 東京新宿メディカルセンター (旧東京厚生年金病院) 内科部長	溝尾 朗	54
---	------	----

佐々木一信氏を偲んで

ダバオ支部長	No.1261	藤本 晴久	56
ダバオ滞在	No.1342	中富 豊美	57

支部便り

北海道支部便り	No.1285	桂 裕章	58
東北支部便り	No.1027	佐藤 周司	58
関東甲信越支部便り	No.1607	阿部 滋敏	59
東海支部便り	No.1544	森 幸太郎	61
チェンマイ支部便り	No. 239	伊藤 寛	64
ペナン支部便り	No.1630	菅野 純	66
クアラルンプール支部便り	No.1682	守田 章	67
マニラ支部便り	No. 999	中山 恒夫	68
ハワイ支部便り	No.1439	塩川 亨	68

部会伝言板

総務部伝言板	No. 996	歌田 晃一	69
広報部会伝言板	No.1207	宮原 正宇	69

友好団体紹介コーナー

70

南国暮らしの会 支部一覧

70

編集後記

70

平成 29 年度 (第 20 期) 南国暮らしの会総会のご案内

理事長 大野 悦子

若葉の候、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、南国暮らしの会にご理解とご協力を頂き感謝申し上げます。

さて、通常総会を下記要領にて開催致しますので、ご出席賜りたくご案内申し上げます。

表決権を有する会員は同封の葉書に出欠を記入しご返送願います。また欠席の方は同じ葉書下部記載の「平成 29 年度総会表決権行使委任状」に記入しご返送をお願い致します。

尚、今年度の総会表決権行使資格者は、本年 3 月 31 日迄に平成 29 年度会費を納入された継続会員の方（細則第 15 条 1）です。ご承知おき下さい（葉書は議決権を有する方のみに同封しております）。

記

日 時：平成 29 年 5 月 28 日（日）午前 10 時～ 11 時 50 分

場 所：港勤労福祉会館 第一洋室 JR 田町駅西口（三田口）徒歩 5 分（案内地図 2 頁参照）

1. 総会議題

* 第 1 号議案：平成 28 年度事業報告及び会計報告・監査報告について

(会報春季号 3～15 頁参照)

* 第 2 号議案：理事退任、選任理事の信任について

①退任理事：No. 996 歌田 晃一 No. 1309 青木 一義 No. 1578 山本 雅巳
No. 1581 黒川 敏彦

②新任理事：No. 888 勝本 隆文 No. 1323 横山 正紀 No. 1704 北峯 康夫
No. 1733 明間 崇文 No. 1763 小西 隆司

* 第 3 号議案：監事退任、監事の選任について

①退任監事：No. 1361 木村 秀男

②新任監事：No. 732 馬場 章介

* 第 4 号議案：平成 29 年度事業計画案について（会報春季号 16 頁参照）

* 第 5 号議案：平成 29 年度予算案について（会報春季号 17 頁参照）

* その他：新任理事（5 名）、退任理事（4 名）、退任監事（1 名）の紹介

2. 総会の議事進行について

総会開催に当たり、会員の皆様には各議案内容を本会報にて事前にご検討して頂き、ご出席出来ない方は同封葉書「平成 29 年度総会表決権行使委任状」を予めご提出頂くこととしております（提出期限は 5 月 25 日必着。この期限を過ぎた委任状は失効しますのでご注意ください）。また海外支部には電子表決権行使委任状を該当者に別途案内いたします。

当日ご出席の方は員数確認のため必ず 10 時迄に受付を済ませて入場して下さい。

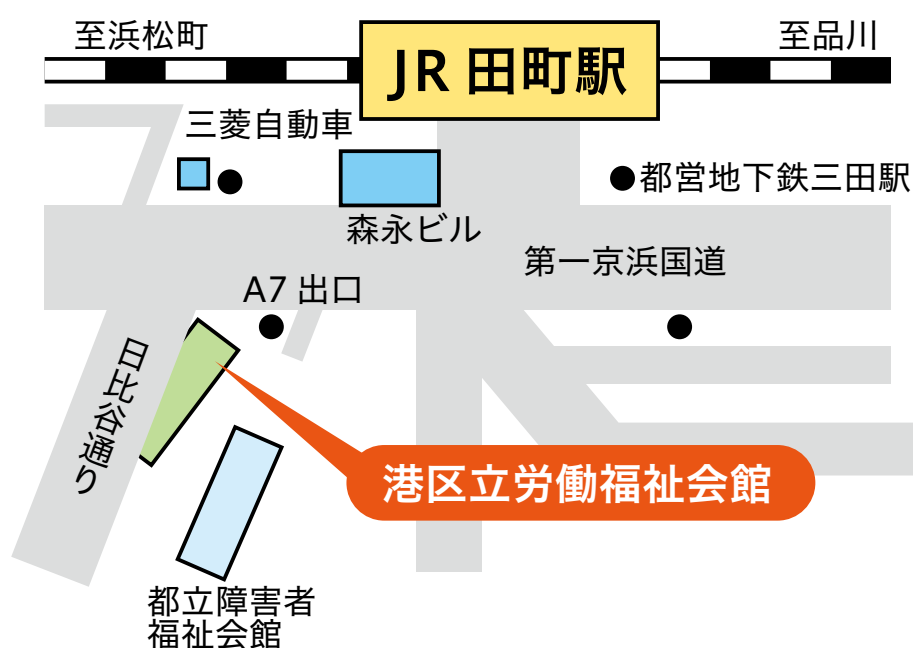
受付係りも表決権者ですので10時にて受付を終了します（遅刻されますと表決権は失効します）。

総会の議事は資料の詳細説明は極力省き、質疑応答から開始し効率よく進行を図りたいと思いますので皆様方のご協力をお願い申し上げます。従って当日は本会報（他に総会関連資料が同封された場合はその資料を含む）を必ずご持参下さい。

なお、議決権を有しない会員（4月以降に入会された新会員、会費納入が4月以降の継続会員及び家族会員の方は別の席：総会会場議長席に向かって左側）に席を設けてありますので、そちらにご着席下さい。

※関東甲信越支部サロン会は、同日（5月28日）13：30～同会場で開催されます。

・・・・・・・・総会会場（港区立港勤労福祉会館のご案内）・・・・・・・・



JR 山手線、京浜東北線 田町駅西口（三田口）徒歩 5 分

地下鉄浅草線、三田線 三田駅 A7 出口でてすぐ左隣

東京都港区芝 5-18-2 TEL：03-3455-6381

平成 28 年度事業報告書

(平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで)

特定非営利活動法人 南国暮らしの会
理事長 大野 悦子

1. 事業の成果

1) 理事会

本年度は、理事の改選期にあたり、7名の理事が退任され、再任の理事12名と新任理事5名が加わり、17名で業務分担してそれぞれの任務を担当され、再任理事が多く、会の運営も支障なく実務を遂行することが出来ました。

2) 国内支部活動

各支部ともサロン会、情報交換会、「この指とまれ方式」の旅行企画など活発な活動が行われました。平成28年5月28日(土)には、年に一度、国内支部長が一堂に会し、役員も出席して「役員・支部長会」が開催され、各支部の1年間の活動報告や次年度の活動予定が報告され、意見交換も活発に行われました。また、関西では、この日と翌日の5月29日(日)に、ロングステイ財団主催の「ロングステイフェア・in 大阪」が開催され、「南国暮らしの会」も出展して参加し、「役員・支部長会」と「総会」と日程が重なったため、関西支部役員の方々の協力を頂き参加することが出来、役員のご尽力の賜物で、12名の方が新規入会されました。

10月9日(日)には、6年前の大震災後、活動が縮小されていまして東北支部で「第1回東北地区ロングステイの集い」と題したセミナーが開催されました(詳細は、2.事業の実施に関する事項のなかの、支部活動報告や広報部の活動報告をご覧ください)。

九州支部で支部長の交代があり、No.651 穴見 保彦氏が就任されました。

関東甲信越支部で支部長の交代があり、No.1607 阿部 滋敏氏が就任されました。

3) 海外支部活動

海外支部では、それぞれの支部でサロン会、食事会、ゴルフ、テニス、小旅行、その他、短期訪問会員への支援も活発に行って頂き、感謝致しております。

ペナン支部では、支部長の交代があり、No.1630 菅野 純氏が就任されました。

4) 会報について

年に3回、春、夏・秋、新年の各号として発行致しました。

「南国暮らしの会」の事業の中で「会報等事業」と「会報等送料費」の費用が「事業費」全体の6割を占めますので、経費削減をするため、本年度から印刷会社を変更し、発送作業も印刷会社をお願いすることが出来、30万円ほどの削減が出来ました。以前に比べても損傷もなく、より見やすくなっております。

5) 広報について

毎年、新年度早々にロングステイ財団及びマレーシア政府観光局、フィリピン政府観光省、タイ国政府観光庁等、関係官公庁を訪問し、各事務局との連携が強化し各国のセミナーに「南の会」から講師を派遣したり、広報部会関係者も参加して会のPRが出来ました。

アフターロングステイ委員会は、今年度は、3回ほど「定例会」を開催し、回を重ねる

ほど参加者も増え、研究内容も少しずつ充実してきました。

6) HP (ホームページ) 及び南国暮らしの会掲示板 (BBS) について

新規入会者は、HP を見て入会される方が大半で HP の意義は当会にとって大きな存在ですが、絶えず情報のメンテナンスを行い新鮮な情報を外部に発信出来るように努めました。

「南国暮らしの会掲示板 (BBS)」は、発足より 3 年が経過し、会員の皆様の情報発信の拠り所となるよう努めてまいりました。昨年度から、BBS と HP のパスワードを年に 1 度、変更することになりました。目的は、あくまでも会員相互の情報ツールとするための措置で非会員の閲覧を防ぐ為のものです。今後も一層、充実させるよう努めてまいります。

7) 会員部会について

「南国暮らしの会」への入会のお問い合わせに、すぐお答え出来るよう、部会員と委員が交代で努めてまいりました。資料請求者への資料発送も資料を軽量化して発送費の削減も出来ました。

8) 「電子化総会委任状」について

昨年の総会で定款変更しました「電子化委任状」(定款、第 28 条の 2 を参照) は、今回は、海外支部の会員を対象に導入して様子をみたいと考えております。

9) 支部活動補助金について

支部活動補助金の支払い実績は、以下のとおりです。また、海外支部長には各 5,000 円の海外支部長活動費を支出しております。なお、バギオ支部長からバギオ支部活動費を熊本地震のお見舞いとして、九州支部に寄付されましたことをご報告致します。

【支部補助金】

(単位：円)

関 東 甲 信 越 支 部	45,000
関 西 支 部	40,000
東 海 支 部	30,000
九 州 支 部	30,000
北 海 道 支 部	30,000
東 北 支 部	10,000
マ ニ ラ 支 部	10,000
チ ェ ン マ イ 支 部	35,000
ペ ナ ン 支 部	15,000
セ ブ 支 部	10,000
K L 支 部	15,000
バ ギ オ 支 部	10,000
ハ ワ イ 支 部	15,000
G C 支 部	10,000
ダ バ オ 支 部	15,000
計	320,000

2. 事業の実施に関する事項

1) 会報部会 作成／発行

◎春季号 (Vo.66) 平成 28 年 5 月 9 日発行

- ・平成 28 年度総会の案内
- ・お役立ち情報
海外旅行障害保険とクレジットカード
マレーシアでの病院事情とペナンの病院について
ダバオ市での介護事情について 等

◎夏・秋季号 (Vo.67) 平成 28 年 9 月 7 日発行

- ・平成 28 年度総会の報告
- ・熊本地震・私達の体験
- ・セブでの英語研修
- ・台湾の LS 環境と現地交流記 等

◎新年号 (Vo.68) 平成 29 年 1 月 12 日発行

- ・バリ島に魅せられて
- ・お役立ち情報
ロングステイに役立つパソコン・スマホ・タブレット 等

2) 広報部会

平成 28 年度の事業活動実施状況は以下のとおり。

① 6 月 24 日 (金)

六本木のフィリピン観光省、及び有楽町のタイ観光庁を表敬訪問 (大野理事長と広報部会 4 名にて訪問)。

② 6 月 26 日 (日)

飯田橋の大和工業本社におけるロングステイ財団主催の「ロングステイフェア」に「南国暮らしの会」もブース出展し、広報部会 3 名にて参加した。

③ 6 月 28 日 (火)

虎ノ門のロングステイ財団及び、有楽町のマレーシア観光局を表敬訪問 (大野理事長と広報部会 4 名にて訪問)。

④ 7 月 26 日 (火)

読売新聞大阪本社、編集局経済部の岸本秀樹記者より南の会の活動内容につき取材申込があり、広報部会宮原氏と寺田氏、及び一般会員の末英樹氏が取材に応じた結果、その記事が 10 月 7 日の読売新聞関西版「老い 2016」と言う連載コラムに掲載された。

⑤ 8 月 8 日 (月)

ロングステイ財団主導による「第一回日本版 CCRC 二地域居住先進自治体市長サミット」が日比谷公園内のコンベンションホールにて開催され、大野理事長と広報部会から宮原氏と寺田氏が出席した。

⑥ 9 月 14 日 (水)

ロングステイ財団主催の「台湾ロングステイセミナー」が大手町の三井生命ホールにて

開催され、広報部会より宮原氏、寺田氏、楨野氏の3名とパネルディスカッションのパネラーとして、支部推進部長の今野力男氏が参加した。

⑦ 10月9日(日)

「南国暮らしの会」東北支部主催による「第一回東北地区ロングステイの集い」セミナーが「仙台市民活動サポートセンター」にて開催され、講師としてタイ国政府観光庁の藤村善喜氏とロングステイ財団の常岡武氏、及び「南の会」の元理事で医師の磯崎興志氏を招請し、大野理事長と広報部会3名が本部より応援参加、東北支部より佐藤支部長以下9名、一般参加6名の総勢20名にて熱心な討議がおこなわれ、小規模ながら大変実のあるセミナーとなり、今後の東北支部の躍進が期待される行事となった。

⑧ 11月26日(土)

例年恒例となった東京有明におけるロングステイ財団主催の「全国ロングステイフェア」に、今年も「南の会」として5回目の出店を果たし、理事長を含む三役と広報部会4名、関東支部2名、及び当日別会場におけるタイ観光庁主催のセミナーにパネラーとして、元理事の島林健二氏が参加、合計10名にて「南国暮らしの会」を大いに宣伝、紹介した。結果、約70枚のアンケートを回収し、そのうち10数名の方が12月の関東甲信越支部のサロン会にゲスト参加され、その中から6名の方が南の会に新規入会されるという、成果に繋がった。

⑨ 平成29年1月～2月

本年1月に広報部会のメンバー4名が期せずしてチェンマイに全員集結したため、最近入会した新人会員やチェンマイ初訪問の会員を中心に、その他在チェの会員にも呼びかけ、広報部会メンバーの企画募集による以下のような行事を実施し、新旧会員の交流と親睦をはかり、ロングステイの楽しみ方の一端を知ってもらうべく取り組んだ結果、大変好評であった。

※1月20日 ボンサーン傘祭り日帰りツアー(参加人数19名)

※1月22日 モンチャム山の景観と花畑、苺畑散策日帰りツアー(参加人数17人)

※2月4日 チェンマイ花祭り見物(参加人数20名)

※2月4日 ピアノ生演奏付高級レストランでの夕食会(参加人数13人)

※2月17日 パアイ温泉日帰りツアー(参加人数18名)

⑩ アフターロングステイ委員会支援

広報部会の下部組織としての当該委員会は、28年度中に7月、9月、11月の3回の定例会を実施(29年3月と5月も実施の予定)。

広報部会からは常時3名が出席して、事務局として委員会をバックアップし、今後の運営方針等にも側面から助言する方向で、支援協力を行った。

3) ネット部会

「南国暮らしの会掲示板(BBS)」発足より3年余りが経過しました。会員皆様の掲示板への投稿も活発化し、会員相互の情報発信の拠り所となっていることと存じます。本年2月には、2回目となるパスワードの変更をいたしました。目的は1回目の変更時に皆様にお伝えしましたが、当掲示板をあくまでも会員相互の情報ツールとするための変更で、非

会員の閲覧を防ぐ為のものです。この変更は、今後も定期的に行っていきたいと考えています。

当掲示板への投稿数は、昨年1年間で掲示板本体に184件、また、スレッド単位で見ますと「チェンマイ訪問、帰国報告」が248件、「セブ便り」が236件、「バリ島情報」41件、「ダバオ便り」29件、「タイ・チェンセン便り」20件などが目につきます。また、昨年4月に新設した「ハワイ諸々」には30件の投稿がありました。しかしながら、余り利用されていないスレッドもあり今後はスレッドの整理も必要になってくると思われます。

また「南国暮らしの会 HP」は、日に200アクセス以上もあり、外部への発信を中心に南国暮らしの会を知っていただき、お試しサロン会にゲスト参加し実際に入会する方も多くおられます。内部会員向けにはパスワードをかけ、会報の電子化でバックナンバーを見ることができ、規約等の内容確認もHPで出来ます。今後もコンテンツの充実を図り鮮度を落すことがないようにアップしていきます。

4) 会員部会

昨年度より資料請求内容を定形郵便にて経費削減送付見直し後の実行と電子版での入会申込書受け付けを実施。

- ・継続会員の手続きは随時実施。1月2月は毎日50～60人の方の手続きを実行。
- ・表決権の人数を調べ総会に備え総務部会へ報告（5月）。
- ・会員部会勉強会実施（6月）。
- ・会員名簿作成作業開始。印刷会社とのすり合わせ作業（8月）。
- ・会報部会の協力を得て会員名簿を春・秋季号と共に送付（9月）。
- ・会員数増減・年齢別などを調べ理事会へ提出。
- ・新入会者の送付につきましては海外にお住いの方でも日本の住所へ送ることを理事会にて再確認（10月）。

資料請求・入会問い合わせは365日受付。会員部会員4人で対応。このため、部会員は同じ時期に海外へ行かないよう相談をし、会員部会業務に支障がないよう実行しています。（6月～5月の毎日）

住所変更・メールアドレス変更届のご連絡も皆様のご協力によりお届けいただけるようになりました。

引き続き皆様にご協力いただけるよう部会伝言板などで呼びかけをしております。

3. 国内外支部活動報告

1. 北海道支部

- ①総会・2回開催（6月、10月）参加者総計52名
- ②支部役員会4回開催（4月、6月、12月、2017年3月）
- ③ゴルフ会2回実施（5月、9月）参加者計39名
- ④バリ島情報交換会開催（8月）参加者19名
- ⑤その他・4月タイロングスティセミナーの開催（タイ観光省、近畿ツーリスト主催・100名参加）

- ⑥ チェンマイにて支部会員間で情報交換開催多数

2.東北支部

- ①支部総会（4月17日）：役員改選、会計報告（2015年度分）参加者6名
- ②サロン会 & 懇親会：総会と同日開催（泊り掛けにて）・参加者全員の活動報告及び情報交換会、参加6名
その他・17日観光（観光4名）18日ゴルフ（3名）を行う。
- ③支部主催セミナー：第1回東北地区ロングステイの集い開催・参加人数20名
10月9日仙台市市民活動サポートセンター・本部(理事長及び会報部会4名他1名参加)の支援及びメディア関係（河北新聞、朝日新聞東北版、会場にチラシを掲示等）に掲載を依頼しセミナーの告知に努め、支部会員（6名）の一致協力にて実施する。
内容はタイ観光庁藤村喜章氏（チェンマイ中心にタイ国諸事情60分）ロングステイ財団常岡武氏（東南アジア諸国ロングステイ事情60分）の両氏に講演を頂く。
新入会員獲得に向けゲスト参加者も加えグループディスカッション、質疑応答を行いました。終了後参加者で懇親会を実施。

3.関東甲信越支部

- ①総会 & サロン会：8月と2月を除く10回実施、総参加者560名（平均参加者56名）
・5月ロングステイ財団福永理事、6月常岡事業部長、9月 All about Malta 坂口代表。
・12月タイ国政府観光庁藤村マネージャーなど外部講師も積極的に招聘して講演頂いた。
- ②懇親会：サロン会終了後、10回実施、総参加者450名（平均参加者45名）
- ③支部役員会（重任8名、新任5名、計13名）10回実施
内容は、支部運営関係、当日のサロン会、懇親会、次回サロン会テーマ等をサロン会当日の午前中に打ち合わせを行った。
- ④パソコン教室：会員番号60番渡辺会員を講師として、台風接近で中止の8月と会員の多くが海外ステイする1月、2月を除き9回実施、参加者は毎回16～17名
- ⑤ロングステイフェア：11月26日東京ビックサイトで開催、支部として全面的に支援。
- ⑥南国テニス同好会：雨天中止の12月27日を除き11回実施、原則毎月最終週の火曜日、毎回10～20名参加、現在会員数40名。10月27日～28日テニス合宿も山中湖にて実施、11名参加
- ⑦この指とまれ：12月4日箱根湯本伊東園ホテル（10月5日、11月14日の2回に亘り、南国暮らし掲示板（BBS）で募集）、計18名参加（男性8名、女性10名）

4.東海支部

- ①定例会：11回（1月を除き毎月開催）総参加者人数195名
- ②懇親会（定例会後に）：10回・総参加人数108名
- ③平日サロン会：12回（第3月曜日実施）総参加人数192名
- ④支部役員会：6回実施
- ⑤ゴルフ会：6回実施・参加者人数68名

- ⑥「ウィルあいちフェア 2016」に参加：2016年11月26日・来訪者30名
- ⑦浜松ミニサロン会：2016年4月3日・参加者17名
- ⑧ダバオ下見ツアー：2016年11月28日から10日間実施。
- ⑨その他：タブレットやラインの勉強会、健康マージャン教室などを適宜実施。

5.関西支部

- ①サロン会（例会）& 懇親会：4回開催・参加総人数214名（忘年会34名）含む
- ②支部役員会：5回開催・参加総人数46名
- ③ロングステイフェア in 大阪：南国暮らしの会として参加（5月）参加者21名
12名の新規入会がありました。
- ④懇親行事：2件3回開催・総参加者人数35名（パソコン教室2回、参加総人数25名・
お昼のサロン会1回、参加者10名）

6.九州支部

- ①サロン会（例会）& 懇親会：4回実施、総参加人数73名
- ②支部役員会：4回（4月、10月、2月、3月）
- ③その他：ゴルフ会3回（4月熊本で参加者12名・10月栗拾いとゴルフ&温泉サロン会、
参加者14名・阿蘇ゴルフサロン会、1月熊本で参加者9名）
・この指とまれ、台湾台中市へ参加者数16名

7.マニラ支部

- ①サロン会は南の会の会員が少ないため行っておりません。
- ②平成28年8月15日・日本大使館主催の「カリラヤ日比戦没者慰霊祭」に参加、式終了
後日本人経営のリタイヤメント施設「桜苑」で日本人の会「マニラ会」、「PRA日本人
倶楽部」他などと懇親、情報交換等を行いました。
- ③平成29年2月18日・南ルソン近郊に住む日本人主体のBBQパーティーに参加、懇親
を深めました（参加人数約50名）。
- ④月1回、日本食レストランで行われている情報交換会及び懇親会に参加しています（基
本的には、毎月第2日曜日）。

8.セブ支部

- ①アヤラ・スターボックスでの毎日の集会。
- ②LINEで南の会セブ支部というグループを作り意見交換、食事のお誘いをしています（ス
ターボックスでのミーティングとLINEのグループでほとんどの事が完了します）。
- ③2月にダバオ支部の佐々木さんの焼香に行ってきました。
- ④3月に会員の結婚披露パーティー・参加はその時に滞在していた会員
- ⑤その他・会員が少ない事も有り南の会としては何もしておりません。

9.バギオ・バンガシナン支部

- ① 2016年度は会員の来訪もなく、あまり積極的な活動は出来ませんでした。
- ② 2016年～2017年3月、バギオで日系人小学生2名に奨学金を支給(1名6,000円程度)。次の教育年度に小学5年と4年に進級するので奨学金は継続します(6月贈呈式実施)。
- ③ 2016年12月11日(日)バギオ日系人会館での日系人奨学生達のクリスマスパーティークリスマスプレゼントを30人分贈呈。
- ④ 2017年1月25日、地元バンガシナン州ウルダネタ市・カバルアンの丘の慰霊碑で慰霊祭実施。
- ⑤ 2017年2月16日、バギオ英霊追悼碑での慰霊祭に参加。
- ⑥ 熊本地震に際し会の九州支部に寄付実施。
年度後半体調不良も有って、東海支部からの視察予定に協力出来ず、それが残念でした。

10.ダバオ支部

- ① 2016年
 - ・7月、ジャパンフェスティバルに参加5名
 - ・8月、ミンダナオ国際大学日本祭に参加10名
 - ・12月、東海支部歓迎会5名参加・忘年会参加15名・年忘れアイランドホッピング参加12名
- ② 2017年
 - ・1月、安倍総理歓迎セレモニー見学に参加8名
 - ・2月、佐々木氏偲ぶ会参加15名
- ③ ボランティア活動:山間僻地への薬剤配布に参加6名

11.チェンマイ支部

- ① 全体の定例サロン会 & 懇親会は年間3回開催します。今年度は8月5日(85名参加)12月17日(31名)1月24日(89名)参加総人数155名。
- ② ゴルフコンペ2回・7月27日(18名参加)2月14日(49名)参加総人数67名。
- ③ 定例ゴルフは週3回実施→予約、キャディ手配、配車を実施(参加者多数の場合は定例とは別に自主運営も有り)。
- ④ 日本から訪チェンの各支部懇親会は別途支部毎に開催。ハイシーズンでの平均的参加人数は20～30名(各支部窓口担当者から報告有り、今後の情報交換に生かす)。
- ⑤ 支部役員会年5回・支部役員6名・支部窓口担当者は5名、リストは掲示板に掲載。

12.ペナン支部

- ① 支部総会:5月7日(場所・Chinesc Recreation Club)
- ② 役員会6回:(場所・Winter Warmers)・5月14日参加6名・7月16日参加7名
9月10日参加7名・12月3日参加6名・1月7日参加6名(4月29日実施予定)
- ③ サロン会4回:総参加人数70名(会場は4ヶ所のRestaurant等・7月21日参加19名・9月20日参加18名・12月15日参加17名・2月8日参加16名)

- ④ ゴルフコンペ開催（1月28日参加者13名 Kulim Golf and Country Resort）

13.クアラルンプール支部

- ① 支部総会実施・（2016年7月22日）2015年度活動実績 & 決算、2016年度活動計画 & 予算について原案通り決定した。役員移動に伴う担当の変更が承認された。
会員の變動について報告があった。
- ② サロン会3回開催：2016年7月定期総会と同時に開催、参加者9名
2016年会員の帰国に伴う壮行会を兼ねて実施、参加者11名
2017年1月新年会及び新入会員歓迎会を兼ねて実施、参加者15名
- ③ ゴルフ会の開催：2015年9月（参加者9名）及び2016年1月（参加者12名）の2回
会員親睦ゴルフ大会を実施、場所はいずれも StafffieldC&R
- ④ 訪問会員対応：日本から6会員＋帯同者を迎えた。会食、コンド案内、MM2Hの取得
相談、ショッピングモール案内、ゴルフ同伴等可能な範囲で希望に沿った対応を行う。

14.ハワイ支部

南の会支部活動は会員が集まる6月にのみ行っております。

- ① 6月9日：ロイヤルクニアにて南の会オープンゴルフコンペを実施、会員は12名参加（会員外も含めると17名参加）
- ② サロン会2回：6月9日・南の会ゴルフコンペ後に表彰式を兼ねてサンライズにて開催、
会員外も含め24名参加
6月23日・サンライズにて開催、参加者15名

15.ゴールドコースト支部

- ① 今年度のGC訪問会員3組：1組は1ヶ月滞在、主にゴルフ・他の2組は数日間の観光
（オーストラリアを1週間や10日間観光では滞在日数短く支部としては会食程度）
- ② 支部の提供出来る事・携帯電話の貸出、空港送迎（有料）、食事会

4. 会の管理に関する事項

1) 総会開催

日時：平成28年5月29日（日）10:00～12:00

場所：東京都南部労政会館 第5、第6会議室

正会員数：436名

出席者数：286名（内、総会出席者35名、書面表決者251名）

2) 役員・支部長会議

日時：平成28年5月28日（土）13:00～16:30

場所：品川第二区民集会所 第一集会室

出席者数：理事16名、支部長7名、監事2名、相談役1名の計26名

3) 理事会開催

			出席理事	委任状	出席監事
平成27年度	5月14日	第6回理事会	16名	2名	1名
平成28年度	6月19日	第1回理事会	12名	5名	1名
平成28年度	10月 8日	第2回理事会	13名	3名	1名
平成28年度	12月10日	第3回理事会	10名	7名	1名
平成28年度	3月18日	第4回理事会	13名	1名	2名
平成28年度	4月 8日	第5回理事会	13名	3名	1名

4) 法務局変更登記・東京都庁申請 平成28年6月21日

・理事

- ①退任理事：No. 843 土井 研一 No. 1108 山田美弥子 No. 1244 金井 修二
 No. 1533 森川 文枝 No. 1537 鈴木 元恵 No. 1591 肥後 信彦
 No. 1612 堀江 健夫
- ②重任理事：No. 173 平山 三雄 No. 434 大野 悦子 No. 996 歌田 晃一
 No. 1207 宮原 正宇 No. 1208 澁谷 幸一 No. 1309 青木 一義
 No. 1388 寺田 光江 No. 1578 山本 雅巳 No. 1581 黒川 敏彦
 No. 1607 阿部 滋敏 No. 1640 川野 俊次 No. 1668 槇野 昭一
- ③新任理事：No. 670 今野 力男 No. 1032 瀧川 清人 No. 1225 高橋 眞治
 No. 1431 兼森 省治 No. 1575 吉田 博

・監事

- ①退任監事：No. 712 高田 勝弘 No. 750 小松 勝正
- ②重任監事：No. 1068 山科 滋雄
- ③新任監事：No. 1361 木村 秀男 No. 1591 肥後 信彦

5. 会員動向

平成27年度から平成28年度への継続会員数：436名

平成28年度新規会員数：47名

平成28年度再入会者数：3名

平成28年度退会者数：6名

平成28年度休会者数：2名

平成28年度期末の会員数：545名

平成28年度賛助会員数（個人）：1名でした。

また、平成29年3月31日までに平成29年度会費を納入された継続会員は409名で会則により平成29年度の総会表決権者数は409名となります。

平成28年度 特定非営利活動に係る事業の会計 収支計算書

平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人 南国暮らしの会

(単位:円)

科 目	予算額 (A)	実績 (B)	差額(B - A)	摘 要
I 収入の部				
(1) 入会金収入	220,000	180,000	△ 40,000	36 名
(2) 会費収入	2,785,000	2,765,000	△ 20,000	
(3) 資料売収入	56,000	46,000	△ 10,000	46 件
(4) 寄付金収入	0	0	0	
(5) 基本金等利息収入	1,000	159	△ 841	
(6) 雑収入	0	0	0	
(7) 前期繰越金より繰入			0	
1. 当期収入合計	3,062,000	2,991,159	△ 70,841	
II 支出の部				
(1) 事業費	2,095,000	1,978,159	△ 116,841	
①会報等事業費	1,070,000	1,021,045	△ 48,955	年 3 回発行
②会報等送料費	250,000	235,196	△ 14,804	年 3 回発行
③資料等製作事業費	40,000	27,212	△ 12,788	
④報告書等製作事業費	80,000	68,925	△ 11,075	会員名簿製作
⑤広報活動事業費	290,000	260,781	△ 29,219	LS 財団賛助会費を含む
⑥支部関係事業費	365,000	365,000	0	明細は事業報告書にあり
(2) 管理費	909,000	737,251	△ 171,749	
①旅費・交通費	730,000	481,002	△ 248,998	
②通信運搬費	68,000	71,133	3,133	携帯電話使用料、総会委任状等
③雑費	70,000	144,316	74,316	会議室使用料、振込手数料等
④支払い使用料	41,000	40,800	△ 200	事務所使用料、インターネット経理使用料
(3) 予備費	100,000	74,258	△ 25,742	
2. 当期支出合計	3,104,000	2,789,668	△ 314,332	(1) + (2) + (3)
III 当期収支差額 (1 - 2)	△ 42,000	201,491	243,491	
(1) 前期繰越金	1,668,988	1,668,988	0	
(2) 事業拡張準備金へ繰入	0	0	0	
次期繰越収支差額 (III + 1 - 2)	1,626,988	1,870,479	243,491	

上記監査の結果、いずれも正確であることを認めます。

平成 29 年 4 月 8 日

特定非営利活動法人 南国暮らしの会 監査会

監事 山科 滋雄 印

監事 肥後 信彦 印

平成28年度 特定非営利活動に係る事業の会計 貸借対照表

(平成29年3月31日現在)

特定非営利活動法人 南国暮らしの会

(単位:円)

科 目	金 額		
1. 資産の部			
(1) 流動資産			
現金	0		
普通預金	30,937		
郵便貯金	1,365,192		
郵便振替口座	3,808,570		
定額貯金	1,300,000		
前払金	50,000		
流動資産合計		<u>6,554,699</u>	
資産合計			<u>6,554,699</u>
2. 負債の部			
(1) 流動負債			
未払金	19,220		
前受金	2,265,000		
預かり金	0		
流動負債合計		<u>2,284,220</u>	
3. 正味財産の部			
基本金		300,000	
事業拡張準備金		2,100,000	
次期繰越金		1,870,479	
正味財産合計		<u>4,270,479</u>	
負債及び正味財産合計			<u>6,554,699</u>

上記監査の結果、いずれも正確であることを認めます。

平成 29 年 4 月 8 日

特定非営利活動法人 南国暮らしの会 監査会

監事 山科 滋雄 印

監事 肥後 信彦 印

監 査 報 告 書

特定非営利活動法人南国暮らしの会の平成28年度（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）における監事監査に関し、監査の方法及びその結果について協議し、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告します。

1. 監事の監査方法の概要

監事会は予め定めた監査の方針等に従い、理事会その他重要会議に出席し、理事会の運営、理事の業務執行、事業活動及び財産の状況を調査し、必要に応じて理事等から報告を求めました。

2. 監査の結果

- ①事業報告書・役員名簿・社員名簿は、法令及び定款に従い、法人の活動状況を適格かつ適正に示していることを確認しました。
- ②計算書類（収支計算書・貸借対照表・財産目録）は、記載すべき事項を正しく示しており、正確かつ適正であることを確認しました。
- ③理事その他役員の職務遂行に関する不正行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

平成29年4月8日

特定非営利活動法人 南国暮らしの会

監事 山科 滋雄 印

監事 肥後 信彦 印

平成 29 年度事業計画書 (案)

(平成29年4月1日から平成30年3月31日)

1. 事業の方針

- 1) 会報事業は年3回(新年号、春季号、夏・秋季号)の発行とする(会報部会)。
- 2) 更なる南国暮らしの会掲示板(BBS)の健全な普及啓蒙を目指す(ネット部会)。
- 3) HPの一層のレベルアップを推進し、対外的に南国暮らしの会を広くPRするとともに会員の為の情報提供に役立つようにする(ネット部会)。
- 4) 会報の閲覧は、南国暮らしの会のHPに掲載し、HPによる閲覧を推進する(ネット部会)。
- 5) 広報活動を活発に行い、南国暮らしの会の活動や認知度をあげ、新規会員を増やす(広報部会)。
- 6) 友好団体との交流を深め、情報交換をし合い、お互いの会の発展を図る(広報部会)。
- 7) 入会希望者に各支部のサロン会にゲスト参加をして頂くよう推奨する(支部推進委員会)。
- 8) 国内外支部と連携を密にし、会員のための会運営を推進する(支部推進委員会)。
- 9) 支部の組織化・活性化を更に推進し、各支部がサロン会を軸に情報交換会、講演会などを開催し、会員相互の親睦と研鑽を深める(支部推進委員会)。
- 10) 上記サロン会等のみならず、同好会活動を通じて、会員間の一層の親睦を図る。更にパソコン教室等を開催してLSに必要な技量アップを図る(パソコン教室、各同好会など)。
- 11) 南国暮らしの会及び各支部が企画する旅行会、下見ツアー等に対し、基本的に会員各自の自己責任であることを周知徹底する(総務部会・支部長会)。
- 12) 益々盛んになるであろうLSに対しLS地での会員の良識ある行為を求める為、「必携」の「海外べからず集」を一層会員に周知させる(規定必携編集委員会)。
- 13) 高齢者や障害者等の為の介護・療養に関する情報や海外でのロングステイを卒業後の活動の情報の収集、調査研究を行う(特別委員会)。

2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施時	実施内容	備考
1、リタイア後、南の国々に居住することを推進していく活動	情報交換し、ロングステイを楽しむ	随時	国内外支部	広報部会、会員部会 各支部
2、高齢者、障害者等のための介護・療養に関する情報の収集、調査研究及び活動	情報収集する中で調査研究を推進し会員と共有する	常時	勉強会の実施 HPの活用 BBSの活用	広報部会 HP委員会 特別委員会
3、体験滞在、旅行会等の情報提供	国内外支部、定例サロン会を中心に情報提供・交換する	常時	国内支部実施 国外支部実施	国内外支部定例実施 会報部会、会員部会 広報部会
4、南の国々の風俗、習慣、国民性、生活環境等の情報収集、調査研究活動	国内外の情報を収集HPやBBS・会報に掲載し共有する	常時	HPの活用 BBSの活用 会報に掲載	HP委員会 ネット委員会 特別委員
5、南の国々の暮らしに関する講演会、講習会、研究会等を主催する	国内外支部定例サロン会、総会開催時に講師を招き実施する	定例化	国内支部随時 総会開催時	国内6支部、国外各支部にて開催し、年1回総会開催時実施
6、南の国々の暮らしに関し内外の学校・研究所・医療機関等の団体と連絡・協力し、資料・情報の交換を行う	友好団体と交流し、情報交換を理事各位で図り、その情報開示を定例理事会で確認する	友好団体は、随理事会、定例化	同業団体 政府観光協会	国内外各支部長 担当部会 各理事
7、会報、案内書、報告書等を作成し、配布する	会報発行(新年号、春季号、夏・秋季号)。年3回継続発行	定例化	会報部会 会員部会	全会員へ配布 新入会員、入会希望者への送付
8、これらに関連する事業、及び事業の情報を収集し、保管し、開示し、更に広報活動を行う	HP、BBS、会報に掲載し閲覧推進する	随時	随時閲覧可能	会報委員会 ネット委員会 HP委員会

3. 収益事業: なし。

平成 29 年度特定非営利活動に係わる会計収支予算書案

(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

特定非営利活動法人 南国暮らしの会

(単位:円)

科 目	前年度 予算額 (A)	本年度 予算額 (B)	差異 (B - A)	摘 要
I . 収入の部				
1) 入会金収入	220,000	220,000	0	新規入会 44 名想定
2) 会費収入	2,785,000	2,690,000	△ 95,000	会員数 538 名想定 (継続 + 新規 + 賛助)
3) 資料売収入	85,000	46,000	▲ 39,000	
4) 寄付金収入	0	0	0	
5) 基本金等利息収入	1,000	0	▲ 1,000	
6) 雑収入	0	0	0	
1. 当期収入合計	3,062,000	2,956,000	△ 106,000	
2. 前期繰越	1,668,988	1,870,479	201,491	前年、当年度決算での繰越額
3. 収入合計	4,730,988	4,826,479	95,491	1.+2.
II . 支出の部				
1) 事業費	2,095,000	2,168,000	73,000	
①会報等事業費	1,070,000	1,040,000	△ 30,000	年 3 回発行会報制作費、会報委員会
②会報等送料費	250,000	280,000	30,000	メール便、海外送料費
③資料等製作事業費	40,000	78,000	38,000	入会者向け資料、会員証、送料代等
④報告書等製作事業費	80,000	70,000	△ 10,000	会員名簿
⑤広報活動事業費	290,000	350,000	60,000	LS 財団会費、LS フェア、プロバイダー
⑥支部関係事業費	365,000	350,000	△ 15,000	支部補助金等 (明細は事業報告書にあり)
2) 管理費	909,000	744,000	△ 165,000	
①旅費・交通費	730,000	550,000	△ 180,000	理事会等交通費、その他行動費
②通信運搬費	68,000	63,000	△ 5,000	南の会携帯電話、総会委任状
③雑費	70,000	90,000	20,000	理事会会場費、コピー、事務用品
④支払使用料	41,000	41,000	0	ネット会計、事務所使用料
3) 予備費	100,000	50,000	△ 50,000	
4. 当期支出合計	3,104,000	2,962,000	△ 142,000	1) +2) +3)
5. 当期収支差額	▲ 42,000	▲ 6,000	36,000	1.-4.
6. 次期繰越収支差額	1,626,988	1,864,479	237,491	3.-4.

フィリピン ダバオ ロングステイ体験記 2016/1/24~3/16 52泊53日

関西支部 No.1652 佐々木 五十四

●南の国に長期滞在し、ゴルフ三昧を楽しむのは私の第2の人生の1つの夢でした。幸い家内も毎日の“おさんどん”から解放されるならと大賛成です。2013年に南国暮らしの会（南の会）に入会しロングステイの下見を開始しその結果2016年1月からダバオへ2ヶ月弱のロングステイを決めました。夫婦では海外旅行をそれなりにしてきましたが今回初めて宿泊先を予約せずに旅にでました。又、航空券も変更不可で出発したのでいやになったらどうするか不安を抱きながら行きましたが、南の会の方々はじめいろんな方のお世話になり、無事楽しく2か月を過ごすことができ喜んでおります。お世話になった方々にお礼を申し上げますとともに、我々の初めてのロングステイを報告させていただきます。滞在中、暇に任せて書いていた日記の一部を紹介し体験記とさせていただきます。

●1月24日 出発 ANA 神戸→羽田→マニラ→ダバオ（これが一番安かった？）

大寒波襲来の大々的な気象庁の警告が出ている日の出発となった。積雪、路面凍結、強風等で空港へ行けないのではないかと飛行機は予定通り飛ぶか？心配しながら当日の朝を迎えた。幸い何事もなく迎えのタクシーで空港に着き予定通り出発した。Davaoには2時間遅れの21時半ごろ到着、タクシーでアパートを決めるまでの5泊を予約していたRed Knight Gardens Hotelに無事到着した。

●1月25日 アパート探し、有り難いことに来る前に連絡していた南の会ダバオ支部長藤本さんと佐々木さん（ダバオ通信の作者）と一緒に9時にホテルに来てくださり『アパートの候補を回しましょう』と。どこへ行っても会員の方は親切で、ここでも初日からお世話になることになった。前年3週間ダバオにいたので多少の知識、土地勘はあるものの

タクシーで自分たちだけで探すには時間がかかるし限界がある。午前中に6か所も回ることができた。新築の部屋、暗い部屋、繁華街に近い便利のいい部屋、普通のコンドミニアム、備品の揃っている部屋、広い部屋等々部屋を決定するのは難しい。最後に見たベリサリオハイツのTsunoda House (Sakura House)を候補とした。

●1月26日 朝ゆっくり食事をして近くの洗濯屋へ、2kgが50pで1日後に折りたたんだものが受け取れる。昼食後、持ってきた古着をJPVAに持参し、個人年会費今年度分を支払う。そこから歩いて15分、Tsunoda Houseに行く。女主人エミリーに会い、挨拶し部屋や備品を見る。部屋の広さはOKだが台所が狭い、備品が古い、汚れている、が700p/日と安い。Wi-FiとTVはOKでなにより日本人が近くに大勢居られる。サロンも近い。南の国関西支部の方が同じハイツ内に数人滞在されているし、佐々木さんの家が50m位の近くにあり、安心感抜群である。その上主人の角田さんが月曜日と金曜日にゴルフに行くので連れて行ってもらえるとのことなので私は即決、家内も少し思案していたが宿代を安くしておいしいものを食べようということで了解した。

さっそく少しリッチな夕食をした。帰り道から停電、街は車のライトだけ。きれいな星空を見ることができた。ちょうど天頂にオリオン座がきれいに見える（ダバオは北緯7度）。暑い時に、短パンにTシャツで冬の星座のオリオン座をみるのは奇妙なものである。部屋に帰っても停電、なにもできない。パソコンの画面が照明代り、ついでに古い写真のスライドショーを見て過ごす。それなりにいいものだ。滞在中の関西支部のYさんにTELし、明日のゴルフをお願いする。

● 1月27日 第1回目のゴルフ Apo Golf へタクシーを呼び、カサマリア（ベリサリオハイツにある日本人には有名なロングステイヤー用のアパート）へ Y さん、N さんを迎えに行き7時にゴルフ場へ、ここの会員の S さんのお世話になる。7時過ぎスタートして10時半に1ラウンドが終わるのがいい。シャワーを浴びて帰ると昼食、家内はショッピングモール Abreaze に遊びに行き2時ごろ帰って来た。夕食は Market Basket で済ます。今夜も停電 2hr。

● 1月29日 ホテルからアパートへ引っ越し、今朝は8時から停電との情報にエアコンが使える8時までに荷造りし引っ越しすべく働く。荷物7つ、タクシーを呼んで Tsunoda House へ。メイドのマジョリーだけがいた。鍵をもらい部屋へ、客の名前も聞かず、なんの確認もなく鍵をくれた。便利だが事が起こった時にどうなるのだろうと心配になる。ここのアパートのパンフレットを要求したがなにもない。だから名称も Tsunoda House か Sakura House か判然としない。幸い昨年一度お会いした O さんが滞在されていて、荷物を運ぶ手伝いをしてもらった。その上昼食を作ってくださりマンゴの木の下で夫婦でご馳走になり、幸先の良いアパート生活がスタートした。午後は買い物、夕食は Y さん N さんのお誘いを受け日本料理『鴨』へ行き4人で食べる。そこへ佐々木さんがこられ『2合炊きの炊飯器があるが使うか』と。勿論大喜びで OK し帰りに佐々木さん宅に寄り、お茶をご馳走になり炊飯器を借りて帰る。やはり近くに知人がいることは大事なことだ。

● 1月30日 メイドのマジョリーに洗濯を依頼、いくらくらい支払うか？ O さんにお聞きして同額を支払う。彼女はアルバイト、我々は洗濯屋までもって行って取りに行く手間が省ける。それこそ Win-Win の関係か。今日も必需品、食料の買い出し、実にいろんなものがあるものだ。明日は玉子焼きが食べ

れそうだ。

今日は佐々木さんに同行して日本語のボランティアへ。私が日本語を教えるボランティアをしたいとお願いしていたが今回、看護師として日本へ行く若者の日本語のブラッシュアップをするためのレッスンがあると声をかけてもらった。40分待ってやっと一人きた。1対2でいろんな話をする。それなりに日本語が話せる若者だった。

夕食は Swiss Deli へ。ビール3杯、スープ、サラダ、肉料理、パン、ケーキ各1皿とり二人で食べる。850p 2,100円、いい雰囲気、立派な味でこの価格、我々の地元、神戸の半額以下。大満足である。

● 1月31日 朝、庭に出てマンゴの木の下へ、ここの住民の集会所である。朝、暗いうちから A さん（84歳でここの主人の40年来の友人、水泳とブラックジャックが好き）は毎朝居られる。そこにここのオーナー角田さん（80歳）が加わり、時により K さん（75歳、オーナーとのゴルフと英会話の生活）や O さん（67歳）が加わる。今日は私も加わりいろんな話が聞けた。いい方ばかりでこの方々の存在も今回のダバオ滞在が成功した一因である。滞在先の良否はそこに滞在する隣人に大いに左右される。隣人の大切さを再認識した。



マンゴの木の下での集会所

●2月1日 オーナー角田さんに連れて行ってもらうゴルフの初回、Kさんと3人で6時にアパート前から角田さんの運転でゴルフ場へ。ゴルフ場には角田さんのカートがあり、至れり尽くせりのゴルフがスタートした。私一人白ティー、お二方はゴールドティーから。スコアは二の次、三の次、ここではゴルフは楽しむもの、ミスショットすればキャディーがすぐ次のボールを落としてくれて打ち直し。林やラフに入ってもボールは必ずいいライにあり必ず次のショットが狙える場所にある不思議なところである。スコアは必ず良くなる。11時前に上がりシャワーを浴び3人で昼食へ、費用は昼食を除いて1,200p弱3,000円、この程度なら助かる。

午後昼寝をしてからサロンへ、数人の方が居られいろんな話を聞く。その後、日本食品店で有名な“ふじや”に行き米を2kg買う、皆さんの推奨する米、おいしければいいが。

今日はマジョリーが部屋を掃除してくれた。月水金の3回掃除してくれシーツも替えてくれる。

●2月2日 今日は南の会ダバオ支部のサロン会、6:00pmから。すこし早く出てビクトリアモールで買い物をする。やっと茶こしを見つけたので買った。時間前に会場にいったがみなさん来られていた。藤本支部長以下13名が集まり、中華料理を食べる。2時間近く歓談しいろいろと情報をいただいた。

●2月3日 ゴルフは3回/週を目標にすることにした。水曜日は角田さん休みなので別の Apo のメンバーの S さんにお世話になることに。ここベリサリオハイツのカサマリヤに宿泊中の N さん、O2さんとタクシーでゴルフ場へ。同年輩の4人でみんな白ティーから少し競争意識が働く。今日はいいいキャディーに当たり気分よくプレーできた。12時過ぎに帰り、家内と一緒に部屋で昼食。彼女は今朝、マンゴの木の下で A さん、K さんといろんな話をしたとのこと。その後 50p

のヘヤーカットにいつてきたと興奮気味に話してくれた。125円のヘヤーカット！ほんとうに！

●2月4日 朝、この Belisario Heights 内を散歩する。古いハイツで大きな家も多い、坂も結構あるのを発見した。佐々木さんが庭に居られ“コーヒーでも”と言っていたので休憩する。『ボランティア活動の一環で今日は山の学校に行きます』と。一人空席があるがどうかと誘っていただく。お世話になることに。食事して9時前に集合。日本人ボランティア7人、JPVA 職員6人の男性10人女性3人、小学校で炊き出しをするのことで鍋、食材、水等すべて準備して行く。車で2時間余、学校手前の最後の山道はすごかった。水道も電気もない小学校、火を起こし、大きな鍋3つで米、オートミール、野菜、肉、レバー、香辛料をごった煮したオジヤ?を作る。それを小学生が各自用意した容器にいれてもらい昼食とする。山間の運動場も満足にない小学校だが、子供たちの目はキラキラ輝いていたのが印象的だった。私はなにもできなかったが、ボランティアの皆さんは手際よく作業しておられるのに感心した。



山の小学生

●2月6日 今日は家内の古稀の誕生日、フィリピンの習慣に合わせて昨日アパートの人全員にケーキをお配りした。昨年もここダバオに下見に来て誕生日を祝ったが、今年も同じ SM モールにあるレストラン Viking へ行く。誕生日の当人は無料、一人

分 800 ペソで日本料理はじめいろんな国の料理が楽しめる。2,000 円は安い。6 時に予約し入店、ビール、野菜、魚、肉、果物、スイーツを 2 時間たらふく食べる。去年は 3 人組のバンドが各誕生日の人の席に来て“ハッピーバースデー”を合奏してくれたが今年はなかったのは残念だった。食後このモールの 1 つの売り物、噴水のショーを見る。細長い 100m 弱のプールの噴水が音楽に合わせて変化し同時に照明の色も変化する。見事なものである。



家内の誕生日

● 2 月 7 日 家内が暇つぶしにショッピングを楽しむ場所に Gaisano Mall、Victoria Plaza Mall、Abreeza Ayala Mall SM Mall に Robinson Super Market と Basket Market がある。4 つの Mall は十分楽しめるようだ。

今日は人に会うため Victoria Plaza へいく。日本語を教えるボランティアをするのもロングステイの 1 つのテーマにしていた。そのため定年後日本語教育の通信講座を修了し、数年間神戸で留学生等に日本語を教えてきた。ここでも日本語学習の手助けをするボランティア活動をしたい旨、関係者をお願いしていたが、同宿の O さんが一緒にビジネスをしている M.K さん 26 歳女性を紹介してくれた。その彼女に今日ここで会って、今後の学



日本語学習

習について話し合った。期間が限られているので週 3 回、各 2 時間することに。教材は私が持参していた本をベースに進めることで合意した。その後彼女とは 7 回授業をした。頭のいい、センスのある子で 7 回でひらがな、カタカナ、ローマ字が読み書きでき数字も言えて、短い会話もできるようになったが彼女が体調を崩し、中断してしまったのは残念だった。

● 2 月 11 日 家内は今日は昼食会、JPVA で数人集まり、日本人職員がインストラクターで毎土曜日に開催しているエアロに誘われ参加することにしたが、今日はそのメンバーの 1 か月 1 回の昼食会に誘われ出席した。イタリアン、おいしかったし会話も弾んだと上機嫌で帰ってきた。『私はなにもしなくてもいい』と言っている家内に予定が 1 つできた。

● 2 月 13 日 家内は午前中、初めてのエアロに参加した。知り合いができること、話ができること、情報が得られること、運動ができること、一石四鳥である。今夕 JPVA で各自 1 品持ち寄りでパーティーをするとのことで、午後はその準備をする。家内がおにぎりと餃子を用意した。6 時に二品を持ち JPVA の食堂へ、各自持ち寄りの食べ物がたくさん並んだのにびっくりした。17 名が集まり、自己紹介しながら大いに食べ、大いに談笑した 2 時間であった。食べ物は大量に余り、それぞれ分けて持ち帰った。



一品持ち寄りパーティー

● 2月15日 今日はゴルフを断り、誘っていただいた Talikud 島への海水浴に行く。女性はおにぎりを持参するのが1つの条件、家内は少し早く起き、ご飯を炊いておにぎりを作って出発した。4夫婦+2男性の10人のグループ、定期船を利用、定期船とはいえ時刻表はないようなもので満席になると出発するというので8時半から着席して待つ、9時15分過ぎに出港、1時間余で島に着いた。海の家?で食事場所を確保し、魚の買い出しに。皆さん熟知しておられ、数分歩いた普通の家に入っていくとそこに魚が売っていた。カツオ1匹、鰹6匹、140pと生姜、にんにく、ネギを買い浜辺に戻り準備、魚を焼くのは海を家の売店に頼み、刺身は自分たちで作る。皆手際が良いのにびっくりした。初心者は見ているだけ、食べるだけ。ビールを飲みながらおにぎり、刺身、焼き魚+各自もちよりの食べ物で昼食。食後は泳ぐ人、魚を釣る人、昼寝をする人等で、南国のきれいな浜辺を楽



タリコッド島の浜辺

しんだ。ほんとうにきれいな海と景色を満喫した。

● 2月17日 水曜日のゴルフはカートなし、6時45分スタートして9時45分に終わる。ゴルフがこんなスピードでできることを初めて体験した。シャワーを浴びて帰ると11時、家内と昼食に出掛ける。夕食後『マニキュアをする』というのでハイツの近くを探すもないので、前にも行ったことのある Victria Plaza へ出掛ける。私も一緒に手足の爪を切って磨いてもらう。気持ちのいいものだ。2人でtipも含め400p、家内は安いと大満足である。ぶらぶらしていると佐々木さんから電話があり『奥さんがどこへもいっていないようなので…』と気を遣っていただき、台湾料理店の火鍋に誘っていただいた。Victria Plaza から暗くなった町を10分くらい歩く。初めての暗くなってからの街歩きに少し緊張した。が再三いわれたがここ Davao は治安の心配がない。冷房が効いているところで久しぶりの温かい料理はおいしかった。

今日1日を振り返るに、朝ゴルフをして18ホール歩き、午後は家内に付き合って5~6時間歩き、夕方知り合いと食事をして…、これは2日以上以上の活動量である。なによりこれだけのことが71歳の今、苦も無くできたというのがうれしかった。南の国の温かい冬のお陰か?ほんとうに若返ったような気がする。

● 2月21日 MS嬢の日本語の日。彼女とはレッスン以外にお茶を飲んだり食事をしたりできた。日本人ではいけそうにない現地のレストランも経験できた。又、家内の英語のレッスンもお願いしている。今日は彼女にお願いし家内が前から一度作りたいと欲していたフィリピンのお菓子“ピコウ”をつくることに。材料は彼女が買ってきてくれた。マラギットライス(もち米)、グレイテッドココナッツ(ココナッツの白い削り片)、バナナリーフ(緑の葉)、砂糖、日本語レッスンを



家内とMK嬢のお菓子作り

しながらライスを炊きその後家内と彼女は英語レッスン代りの菓子作り、25個の立派なビコウができた。なかなかの味である。アパートの住人にも食べてもらった。

(その後も同様に忙しすぎず、暇すぎずとロングステイ生活が続きますが割愛します)

●52泊53日 fixされた航空券、いやになっ

たらどうしようか？体調を崩したらどうしようかと不安を抱いていたが、無事楽しく過ごすことができ、ほんとうによかった。大勢の方々にお世話になりました。なによりいろんな方にお会いし、いろんな話が聞けたことが予期していなかったロングステイの成果であった。まったく自分と違う又は自分の周りにはいる人とは違う経験をされた方々、まったく違う考えの方々と話しができたことが印象深い。又、楽しくするのも面白くするのも自分自身の責任であることを再認識した。当然ながら“温かい冬の良さ”が経験できたことはもちろんである。大勢のお世話になった方々にこの紙面をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

アメリカ西部絶景巡り(ビジネスクラスに搭乗して)

関東甲信越支部 No.1437 金澤 公平・正子

● JTB ツアーで9月7日から14日まで、アメリカ西部絶景巡りをする。4月下旬、新聞の広告にアメリカ西部旅が、ビジネス利用で40万円弱の価格に直ぐに飛びつく。夢だったビジネスクラスの旅が夫婦で叶う。夫の友人も申し込み、4人の賑やかな旅になった。

●ビジネスシートは余裕があり隣の人が気にならない。ただ初心者でシートの使い方など分からずまごつき、アテンダントに聞くのでリッチ気分を味わってられない。期待していた食事は、和食を選んだにも関わらずフランス料理のように一皿ずつ運ばれ、温かくない。ご飯やみそ汁は温かくてホッとする。シートが平になるのでぐっすり眠れるかと思ったが、エンジン音が聞こえて寝付けず、ようやく寝たと思ったら、到着体制になり起こされた。往路は成田から、サンノゼまで9時間半。復路は11時間。

●定刻にサンノゼ空港に到着。雲一つない青空の下、アメリカの大地を踏む。埼玉と同じような気候だ。現地に住む日本人ガイドの松本さんが出迎えてくれた。

●すぐにバスに乗り77km北のサンフランシスコを目指す。ゴールデン・ゲート・ブリッジは、赤茶色の2,730mの橋だ。友人達と橋をぶらぶら歩く。橋の下は真っ青な海、穏やかな白い波、船が小舟のように数隻行きかう。バスに乗る時はもう日が沈み、日中は暑かったのに夕方になると風が冷たい。

●翌日はバーストローからグランド・キャニオンまでは608kmあり、距離の長いこと。朝8時にホテルを出て、赤茶のモヒビ砂漠の味気ない道を通り、見飽きたころ右側にアーモンドの木、左側にブドウ畑やトウモロコシ畑が見えてきた。カリフォルニアは農産物の地として名高いが砂漠地帯なので畑に人工的に水を入れ作っている。

● 3時半ごろようやくグランド・キャニオンに到着。バスから降りマーサー・ポイントまで3分程歩くと、いきなりグランド・キャニオンが見える。断崖絶壁の溪谷が目の前にある。大きすぎて幅も奥行きも視界からはみ出してしまふ。遠くや近くで見える赤茶の地層。深い崖の足下には低い木や草がある。ここから飛び込んだら、もう…。

●次は別のビューポイントのブライト・エンジェル・ロッジに向かう。そのロッジの中を通過させてもらおうと、またグランド・キャニオンの絶景が見えて感激する。青空の下、どこまでも続く荒々しい赤茶色の岩肌。近くに遠くに断層が見え、底の見えない断崖絶壁は恐怖すら感じる。地球上でこんな景色があるのだ。

●ページから10km 砂漠の方に走るとアンテロープキャニオンがある。ここを見学するためにはバックなどを持ってはいけない。カメラと貴重品だけ。案内ガイドはナバホの20代の男の子で愛想のいい曙のようだ。10分位砂塵をあげて砂漠の中を走ると5台位トラックが留まっている所で下車する。入口からすでにきれいなウェーブが見える。最初から入口で皆が歓声を挙げ写真を撮りだす。茶色とクリーム色の地層の岩肌が滑らかなウェーブを作り、岩の先が鋭いカーブのもあり独特の形を作っている。ガイドに案内されながら少しずつ進む。中は暗いので懐中電灯をつけて歩く。だんだん上から太陽の光が狭い溪谷に差し込んできた。小孔から放射線状に降りる光線と、地層の岩肌が明と陰を作り、滑らかなウェーブとなる。幻想的な景色に入りこむ。

●西部ツアーはサンフランシスコから、ヨセミテ、グランド・キャニオン、モニュメントバレー、アンテロープキャニオン、ザイオン、最後に砂漠の中にできた街ラスベガスとなった。

●ラスベガスも楽しみにしていた。ギャンブルはしないが賑やかで面白い所がたくさん



ヨセミテ



グランドキャニオン



モニュメントバレー

んあると聞くので。夕食は日本料理店に行き、日本料理を食べて満足をする。日本人ガイドに案内されてラスベガスで一番高いストラトスフィア・タワーに昇り、270mの高さから夜景を見て一直線に伸びた道路にネオン輝く街に大感激。その後はストリップ通りに行き、商店街の天井に大音響の音楽と共にビートルズなどの赤や緑などの極彩色の映像が流れ、耳が痛くなった。女性ガイドはギャンブルをしきりに勧める。ホテルに帰ると12時。それから入浴、ほとんど疲れた。欲望の街ラスベガスは疲れる、という印象になった。

●西部は豊富にある大自然の景観を生かし観光につなげ、自然を壊さないように開発している。アメリカンフロンティアを感じる。やはり世界一の国だ。



アンテロープキャニオン



ザイオン国立公園

東地中海クルーズ「初めての船旅」

関東甲信越支部 No.1763 小西 隆司

●2016年9月2日【金】から9月12日【月】迄東地中海クルーズに行ってきました。主催は「てるみくらぶ」、南国暮らしの会での同行者は、肥後信彦さん、塩川亨さん、私と家内の4名。クルージングまでの行程は、以下の通りです。

・第1日目：成田国際空港→仁川国際空港【大韓航空】トランジット（約3時間）→ミラノ【大韓航空】約12時間。専用バスで移動、ホテル泊。

・第2日目：午前中ミラノ観光後→ベネチア迄専用バスで移動、約6時間。ホテル泊。

・第3日目：ホテルからベネチア港迄専用バスで移動して乗船。

●クルージングは、3日目の夕刻から。ベネチア→バーリ【イタリア】→カタコロン【ギ

リシャ】→サントリーニ島【ギリシャ】→ピレウス【ギリシャ】→コルフ島【ギリシャ】→コトル【モンテ・ネグロ】の3ヵ国7か所を廻り、ホテル2泊、船内7泊、機内1泊の計10泊11日の旅でした。



クルージング寄港地

●地中海の温暖な気候と船のゆったりと流れる優雅な時間に、毎日が魅力的で至福の贅沢を感じました。全貌は紙面の関係で伝えきれないため、簡単に各地の寸描を紹介します。又、寄港地が多く写真を多用する事を断っておきます。

I . 韓国仁川国際空港：乗り継ぎで移動する際、韓国の時代劇に出てくるような人達のパフォーマンスがありました。



仁川国際空港でのパフォーマンス

II . ミラノ：仁川国際空港で添乗員とツアー客30名が集まり、ブリーフィングがあります。ここからミラノ・マルペンサ国際空港までは、満席です。しかも座席は3列席の真ん中で殆んど眠れません、旅の初日はきついものでした。ミラノ泊。

翌朝はミラノ市内の自由散策です。



ミラノの街並み

ミラノの町は、古い建物が多く整然としている印象で、歴史ある外観を残し内装を中心に改装している様子がうかがえます。街中では刺青をした多くの老若男女や、煙草を吸う

人が目につきました。道端にはゴミが落ちているし、噴水の近くを通ると黴臭い特有の臭いがします。繁華街の一角でホームレスが物乞いしている姿も見受けられました。観光客の一团に静かに近寄って来る男がいます。表現不能なヒヤッとする緊張感がありましたが、何事でもありませんでした。

4人で人混みを避けスフォルフェスコ城まで歩き、ドウオモ・スカラ座を遠目で見ながらアーケード街に戻り、昼食。ビールとスパゲッティで1人約25€程度でした。

昼食後、マルペンサ国際空港で本日到着の「てるみくらぶ」別班で同コース利用の方8名と添乗員1名に合流しました。最終的に今回はツアー客38名、添乗員2名、総勢40名の団体です。ミラノからベネチア迄は高速道路を利用しましたが事故渋滞で、ベネチア到着は20時頃になってしまいました。ベネチア泊。

III . ベネチア港：ホテルからベネチア港に行く途中、道路わきの壁にスプレーで書いた落書きが目につきました。どこかの国と同じような凶案と文字のようです。

1時間ほどで港に到着です。港は大型バスが次々と到着して、大混雑していました。



ベネチア港での混雑

整理券が配られ順番に乗船となりますが、乗船迄には4回のセキュリティ・チェックが有ります。

乗船前には必ず上半身の写真撮影があり、この写真を基にクルーズカードとセットで乗

下船時の本人チェックが行われます。特に船内持ち込み品は、航空機に乗り込むときよりも嚴重にチェックされました。

13時半頃乗船し、部屋に入ると何とデッキ付です。内側キャビンと聞いていたのですが、デッキ付きの部屋で初めての船旅が出来ることになりました。デッキに出て椅子に腰かけると、何か良い事が有るような予感がします。

16時半乗船者全員の義務で避難訓練を行いました。船室に備え付けのライフジャケットを持参しクルーズカードを提出、チェックを受けたのち説明を受けます。説明は英語・ドイツ語・スペイン語・フランス語・もちろんイタリア語の5か国語で説明されます。これだけの言語と身振り手振りで説明されると、意味は完全に通じます。

ベネチア港出航は19時半の予定が2時間半遅れましたが、船は揺れることなく静かに動き出しました。

Ⅳ.クルージング

●クルーズ1日目：13時バーリ【イタリア】到着、晴れ。

船では必ず夕刻に、翌日の情報が記載された船内新聞が配られます。勿論日本語です。船内新聞で日の出を確認し、デッキからアドリア海に顔を出す朝日を写真に収めました。



アドリア海の日の出

クルージング初日に幸先良く、日の出を見る事が出来ました。

今日は EXCURSION で【アルベロベッロ】

へ行きます。港からは専用バスで約一時間位の距離でした。途中サボテンの実が沢山なっていますが、「インドのイチジク」という名前で果実は甘いとか。

アルベロベッロはイタリアの中部に属し、バーリ港から少し離れるとオリーブ畑・葡萄畑が広がっています。ここはオリーブオイルやワインの生産のみならず、花嫁衣裳の店が多く、ここで花嫁衣裳を購入して結婚式に行く女性もいるそうです。

バスからとんがり屋根の「トゥルツリ」が見えました。イメージ的にはヨーロッパの古い田舎のようです。



とんがり屋根の「トゥルツリ」

平たい石を重ねて作った、とんがり帽子のような格好の家が並ぶアルベロベッロは、古い村。村が作られた当時、税金は屋根のある家屋が課税対象でした。領主が税金を逃れるための策略として、監査が有る時は家の屋根「トゥルツリ」を取り外させ、課税から逃れたとの秘話があります。

又、トゥルツリは雨水を確保するため屋根を円錐状にし、地下の井戸へ導くよう工夫されています。樋なども壁に埋め込まれており、厚さも80cmから2m近いものが現存しています。断熱効果を考えた生活の知恵で、基本的に窓は小さくできています。

土産物店の屋上に上がり街並みを眺めると、どこか似た様な風景を思い出します。日本の白川郷の合掌造り家屋群と似てる感じかな。



アルベロベッロの街並み

トイレは殆んど全て有料で、後学の為0.5€を払い有料トイレに入ってみました。ここのトイレは、全部個室タイプで臭くて汚い。有料0.5€の意味が全くなく、ドアでも蹴とばしたい気分が出てきました。帰り際少し雨が降り始めましたが、幸い港に戻るところに雨は上がり、濡れる事無く第一日を終了しました。

●クルーズ2日目：曇り。早朝から風が強く、海面には白波が立っています。今日のEXCURSION【オリンピア】は集合時間が11時45分だが何となく心配していると、やはり船内放送がありました。風が55km/sと強く、カタコロン港に接岸できない。安全の為サントリーニ島へこのまま向かうとの事。

放送は英語・フランス語・ドイツ語・スペイン語・イタリア語で、繰り返し放送されました。オリンピアへ行けず残念だが、自然相手では仕方ありません。

今日は終日クルージングとなったので、船内施設を見て歩きます。13階・14階・15階の各施設、カジノ、シアター、各階デッキやスポーツジムなど隈なく歩きました。

スポーツジムは最新のトレーニングマシンが揃っています。1時間位トレーニングしましたが、日頃の運動不足か疲れました。

●クルーズ3日目：晴れ。今日のEXCURSIONは【サントリーニ島】です。

夜明け近くにサントリーニ島がうっすら

見える頃デッキから見ると、島の頂上付近に雪をかぶったように白く連なったものが見えます。望遠レンズで確認すると白壁の家々です。

日が昇り改めて見るエーゲ海は美しく目立ったごみなどの散乱物は、見受けられませんでした。

船着き場から見上げると、家々は頂上付近から崩れ落ちてこないか心配になるほど急な崖の縁に、密集して建てられています。

サントリーニ島は火山の噴火で形成された島で、緑が殆どなく岩と石だらけの荒れた島の印象です。

急峻な断崖を細い道路が頂上迄続いています。対向車線にバスなどが通り過ぎると一瞬ヒヤッとする位の道幅です。

最初はイア村のワイナリーに到着。バスから降りると、甘い香りが漂ってきます。サントリーニ島は、岩が多く乾燥した土地で葡萄の木があまり高く伸びず、葡萄の甘みが凝縮されるという。島のワイナリーで生産されるワインは「赤」が多いそうだ。気取って、グラスの中でゆらすと「ワインの涙」がゆっくりと落ちてきます。飲んだ後に鼻から抜ける香りは微かに甘く、サバナを吹く風の様です。

朝のイア村は霧で視界は良くありませんが、時々気まぐれに雲が切れ遠望はできました。



サントリーニ島の外輪山

頂上付近から周りを見渡すと、噴火で出来たカルデラで巨大な外輪山の様子が良く分ります。

イア村を出てフィラ村に行きます。島の中腹辺りで、岩の中に洞穴が作られています、少し前まで人が住んでいた跡と説明がありました。

島全体にインフラが良く整備されていないようです。麓付近には建設途中で放棄したような建物も見受けられました。

ここは一年の内355日は雨が降らない気候で、駐車してある車は洗車した形跡もなく埃まみれ。ここでは、雨水を貯めておくタンクがありシャワーは雨水、飲料水はペットボトルで済ますそうで、水は貴重品です。

バスはジグザグに進みフィラ村に着きました。フィラ村に着いた時には素晴らしい天気となっていました。今回のクルージングのEXCURSIONで最良の1日です。何処までも青い空、見下ろすと青い海、白い船が行き行き交う風景を頭に沁み込むほど眺めていました。まるでサイレント映画を見ているようで、微睡みたいほど静かな時間が流れています。「ここに一日いても飽きないな！」肥後さんが何回か繰り返した言葉が印象的です。



急峻な断崖に建てられた家々

教会などの屋根は青で、白壁を基本としているので素晴らしいコントラストです。家は急峻な断崖の中腹を水平にくりぬいて

作られた独特の家屋様式で、人々は張り付くように暮らしています。

途中ロバを使って資材を運搬する姿を見ましたが、狭い通路にごく自然に馴染んで違和感がありません。フィラ村で昼食、4人でビールを飲み、ワイン1本と烏賊リングフライ1皿を頼んで一人約25€でした。



フィラ村での昼食

頂上から船着き場まで降りる方法は、歩く、ロバに乗る、ケーブルカーに乗るの3つです。今回はケーブルカーで降りることにしました。

暑い日でしたが乗り場は長い列ができていて、乗車するには約1時間待ちの状況でした。途中に整理員もおらず横入りする人もいます。きちんと並んでいる人からは、乗り場の係員にかなり激しい口調で文句を言っていました。我々も日本語で「横入りだぞ！」と言いましたが勿論通じません。1時間程待つ約5～6分で港まで降りてきました。

テンドーボートを待つ間、船着き場のバーで気分直しをすることにしました。ビールとワイン、烏賊のリングフライ、イワシのから揚げ等を注文しましたが、これも一人当たり約25€でした。

(続きは次号で掲載いたします)

ホストファミリー奮闘記

関東甲信越支部 No.1572 武富 千津子

●はじめに

南国暮らしの会の皆さまは海外でロングステイを楽しんでいらっしゃると思います。私は逆に海外からロングステイをする学生を預かるホストファミリーを長年続けております。

日本の大学で1年間勉強する交換留学生、観光ビザで3カ月の滞在、あるいは1ヶ月のバカンスを利用、とさまざまな形で来日して、語学学校に通い日本語の勉強をします。文化、歴史、言葉の違うアメリカ、イタリア、フランス、ブラジルなど数多くの国の学生を預かり、その数は27年間で100人を超えます。

最近ではマンガ、アニメーション、テレビゲームに興味を持つ学生も多くなり、電子機器の発達で世界が近くなりました。

●日傘をさした青年

学生のプロフィールを綴ったクリアブックを開いた。

クリアブックに7月からホームステイする学生のプロフィールを差し込んだ。ページを繰っていくと差し込んだ紙の端に67と数字が書き込んであった。

その数字は3年前で止まっている。書き足していくと86になった。20数年間我が家にホームステイした学生の数だ。知人の紹介、再来日の学生はプロフィールがない。それらの学生を加えると、我が家に滞在した学生の数は100人を超えている。

7月、86人目、タイ・バンコクに住む20歳の男子大学生が1ヶ月ホームステイすることになった。タイ人の受け入れは初めてだ。タイの年間平均気温は32度から35度。太陽を浴び、陽に焼けた逞しい青年を想像していた。

語学学校に学生を迎えに行った。待っていたのは色白で背が高く太陽嫌いの青年

だった。

最寄り駅に着いた。電車を下りて改札を出ると、キョロキョロしている。「バンコクでは電車を降りると車かタクシーを使います」と言い車を探していたようだ。「電車を下りて歩くのは初めてだ」と言う。家まで歩いていく途中、ランドセルを背負った小学生が2、3人が楽しそうに話をしながら通り越していった。その姿を見て驚いている。

日本では普通に見られる光景だ。タイでは子供が道路を歩いていると誘拐されてしまうので親の送り迎えが必要だといった。

父親はバンコクでコーヒーショップを4軒持っている。母は大学の先生だと言うW君。小さい時からインターナショナルスクールに通い、家から学校まで車の送り迎えがあったと言う。

語学学校と家を往復するだけで持っているエネルギーを使い果たしてしまうのか、W君は授業が終わると、渋谷、秋葉原を遊び歩くことも無く家に帰ってくる。

ある日、朝から強い太陽が照りつけていた。学校に出かけたが、頭が痛いと言い、早退してきた。頭痛持ちなのか尋ねると、このような症状は初めてだと言う。軽い熱中症だろうか。翌日は学校を休んだ。このようなことが2、3回続いた。



太陽が嫌いなので毎日通学の行き帰りは日傘をさしていくようになった。梅雨が明け毎日ギリギリの太陽が顔を出したら、太陽嫌いなW君は倒れてしまうのではないか。

学校の留学生担当係りに、駅から家まで外を歩かなくてよいホスト・ファミリーはないか、尋ねてみた。係の人は「そんな便利などころはないでしょう」と言った。数日後、駅から1分と言う所が見つかり、残り10日間の学生の受け入れを承知してくれた。

数年前の夏、同じような日程でホームステイしたマレーシア、インドネシアから来た女子学生は、太陽を浴びながら原宿、渋谷、池袋と歩きまわり「暑い、暑い」と言いながらも買い物を楽しみ、元気に帰国していったことを思いだした。

●悪戦苦闘する留学生

日本のマンガ、アニメ、テレビドラマを見て日本に興味を持ち、来日する学生が多い。夏休みを利用して来日し日本語学校で1ヶ月の勉強をする学生や、交換留学生として日本の大学で1年間勉強する学生等、さまざまだ。

夕食の時間アメリカ人大学生A君は、「お母さん僕ごうかんしたい。日本の大学生は皆しているよ」と言いだした。「電車の中、人ごみでそのような事を言ってはダメ。警察に連れて行かれちゃうよ」「???」詳しく話を聞くと、大学生が合コンをよくすると聞いた。合コンをごうかんと聞き違えた。

テレビを見ている。「この女の人コワイ」と言う。

カワイイークワイイーコワイになる。耳から入る言葉は難しい。

明るくて元気で少しそそっかしいイタリア人L君は、玄関先で「ただいまー、間違えた、行ってきまーす」とよく言っていた。

「今日の漢字テスト間違えちゃった」とテストを見せる。(しゅふ)の漢字を書きなさい、の問いに(酒夫)と書いてあった。()を何とか埋めたい、と悪戦苦闘している様子が

見えてくる。

フランスの大学で国文学を学ぶタヒチ人Tさん。外国でフランス語を教える実習があり日本を選んで来日した。日本語は全然できなかった。携帯にTさんからメールが入った。「きょうはたくさん便器ようしました」勉強の漢字の変換が出て、どれを選んでよいかわからなかったようだ。



結婚式場での神父のアルバイトを見つけたイタリア人M君、式場で神父の言う言葉は全部ひらかなで書かれている。文を覚えるため漢字を使い読みやすいように自分で書き直している。

「=ふたりのあいとはたえることはない=の耐える、絶えるどっちの漢字を使うの」と聞いてきた。「うーん、迷うな」

悪戦苦闘している若者と共に生活していると楽しい。

●鳴き方いろいろ

アメリカ人ティムとイタリア人ステファノー、2人の男子大学生がホームステイした。ステファノーは日本語を話すことができる。ティムの日本語レベルは初級だ。

学生との食事時、日本式に黙って食べると言う事もできない。何を話そう、何を聞き出そうと毎日いろいろ考える。

「ともだちと、さけをのむ。いえでたべない。」と日曜日の昼ごろから出かけたティムからメールが入った。

翌日「昨日は友達とどこへ行きましたか、

夕食は何を食べましたか」とティムに聞いてみた。

「モーモー焼き肉に、行きました。モーモーはなんですか」

「モーモーは牛です」と当然のように私は答えた。

「アメリカの牛はムームーと鳴きます」

「イタリアではバウバウです」とステファアーノが言った。おもしろい。動物の鳴き声で話が盛り上がった。

「猫はミューミュー、犬はバウワウ」とティムが言う。

「イタリアで猫はミャオミャオです。犬はバウバウです」とステファアーノ。イタリアの牛の鳴き方と犬の鳴き方が一緒だ。犬はバウバウと早く鳴く、牛はゆっくり鳴く。その違いなのかな。

「ニワトリはクックドゥードゥ、ユッカドゥードゥルドゥ」とティムは上手に鳴き方を真似した。私もニワトリの鳴き方を真似てみたが舌を噛みそうだった。

「イタリアはキッキリキー、コキリコキーです」

動物の鳴き方もいろいろだ。真似しても発音が悪ければ通じないだろう。やはり外国語を勉強するのは難しい。



●夕食メニュー

ホストファミリーをしていて「家に外国人と一緒に住んでいる」と聞くと、誰もが、「食事はなにを作るの」と質問する。4月から滞

在している2人のイタリア人大学生（22歳）で夕食メニューを書いてみた。

【来日初日】カレーライス。午後3時過ぎに外国語学校に学生を迎えに行く。出かける前にカレーを作っておく。

【2日目】餃子、シュウマイ。日本食で好きな物を聞いてみる。刺身と鮭がいちばん、次に餃子、焼きそば、ラーメンと続く。

【3日目】刺身。日本の水にも慣れ、生ものを食べてもいい頃だろう。イタリアで手軽に食べられる刺身はサーモンとマグロの赤身。それらの他にハマチ、アジ、タイ、エビ、ホタテ、を皿に盛る。嬉しそうに顔を綻ばせ、手にした携帯電話で写真を撮る。オイシイを繰り返して平らげた。「これは何ですか?」と聞き初めて目にする寿司ネタでも臆せず食べる。10数年前の学生は主にスキヤキ、天ぷらなど火の通った物を好み、生ものはあまりたべなかった。

【4日目】ハンバーグ。具を混ぜたひき肉を手の平一杯に広げ、形を整えフライパンで焼く。皿に大きな2個のハンバーグを盛る。夫の皿には1個。彼らの皿と比べ1個少ないので不服そうな顔をする。40歳以上の年齢差を考えず、何気に競っている。

【5日目】トマトソース・スパゲッティ。イタリアで昼食はパスタを食べる。パスタが恋しくなってきた頃だ。イタリアで食べるスパゲッティよりおいしいですと褒める事を忘れない。

デパートの食品売り場を歩くと、惣菜、弁当何でも手軽に手にすることができる。献立を考え手作りにこだわり、夕食を作る自分に、「ご苦労さん」と声掛けをした。が、学生達に「ありがとう」を言いたい。メニューを考える機会を与えてもらい一緒に食事をする。そして若者のエネルギーをもらう事が出来るのだから。

●エネルギーも底をつく

フランス系の語学学校から「今年はホームステイを希望する学生が多く、1人受け入れ

てほしいと学校から連絡があった。

他校のイタリア人学生（3ヶ月）2人の受け入れを承知した後だった。3人預かることになる、買い物と食事の世話も忙しくなる。預かるのを断ったが、負けた。

4月、5月、6月、フランス人、ベルギー人と毎月入れ替わり、めまぐるしく動いた。私のエネルギーも底をつきそうだ。

7月からは3ヶ月滞在のフランス人・アドリアンがやってきた。25歳男性。語学学校の初級クラスに入り「あいうえお」から勉強を始めている。

「私、は…」3秒、10秒待たないと次の言葉が出てこない。

「私は、アンコを、つくりました」

「????」

フランス人はhの発音をしない母音だけを声に出す。ハンコがアンコになる。英語の発音も同じだ。how to sayが「アウ トウセイ」になる。理解するには、かなりエネルギーを消耗する。

身長184cm、スポーツ好きな彼は、駅近くのスポーツジムに通い始めた。ジムには幾種類もの運動する機械が並び、プール、ジャグジーが有る。風呂場に行き、体を洗う様子を見てきた彼は、英語と日本語とジェスチャーで質問する。

「あれは、なんですか」と手を後ろに回し右手、左手を上下させる。シャワーしか使わない彼にとって、椅子に座り体をタオルで擦っている仕草が物珍しいようだ。ジムで風呂に入る時に使うように、タオルを1本持たせた。

「イスに座り、となりのオジサンの真似をしてタオルで体を洗い、桶にはった湯をバシャと自分の体に掛けた。気持ち良かった」と帰ってきて話した。

「私は、日本人に、なりましたね」と嬉しそうに話す。

アドリアンは1ヶ月の偵察(?)過ぎると

居酒屋、カラオケに出かけるようになった。「友達と遊ぶから夕食は家で食べない」とメールが入る。その間に私の残り少なくなったエネルギーを補給しよう。

●ファミリーパーティ

8年前、日系メキシコ人春美は、交換留学生として来日し1年間我が家に滞在した。翌年再来日し、IT企業に就職。6年間日本で働いた。そして東日本大震災が起こった2011年4月「地震がこわい」とイギリスに移った。

「来週日本へ行く、皆に会いたい」と春美からメールが届いた。年2、3回居酒屋などでファミリーパーティを催す。



パーティ企画係りの娘へ、メールを転送した。当日の出席者は、私と夫、娘2人、息子夫婦とステイしているカナダの学生2人それに加え、ゲストハウスに移ったイギリス人ジェイソンとフィリピン人キャシー、イギリスから来た春美と彼。フランス人と結婚したタヒチ人チミりは、3カ月のベビーを連れて参加。合計14人半。外国人は居酒屋のメニューを読むのが難しい。企画係りは、メニューを読みあげ、英語、日本語で説明し、どんどん注文した。皆、刺身、枝豆は食べ慣れているが、マグロの兜煮をみると、一瞬ギョとした顔をする。料理好きなジェイソンが恐る恐る箸をつけた。口にして「美味しい」のサインを出す。みんなの箸が動き出した。チミリのベビーがぐずり始めた。「なんで泣い

ているのか、わからない」と言う。「私もお腹空いたーと言っているのよ」と言って部屋の角の壁に向かい、皆に背を向けベビーにおっぱいをあげさせた。1か月間滞在のカナダ人は梅酒が気に入り、メニューを横に置き、梅酒をどんどん注文する。

「精算。一人、4,000円」と娘が言う。「収入なしの人と学生は払わなくてもいい」「アッ、チミりはベビー誕生祝いだ、無料」「春美はイギリスから参加だから…」払う人の数が少なくなる。仕分けが面倒だ「今日は、私のおごりー」と言ってしまった。

語学学校が終わり帰国前に、日光、京都と旅行したカナダ人。どこが1番楽しかったかと聞くと、「居酒屋です」と言った。

多くの国から参加し、回を重ねる度に、ファミリーツリーは成長する。その木陰に集い賑やかなひと時を過ごす。

●ホストファミリーを始めた理由

「無理、無理、こんな狭い家に留学生を預かるのは無理。受け入れできませんと先生にはっきり伝えなさい」と強い口調で言った。

数日後「校長先生が、学校に来て下さいって言っているよ」と息子が言う。校長にしっかり断ってこようと心に決めて学校の門をくぐった。

校長室に通された。部屋の壁に大きな世界地図が貼ってある。交流のある国には小さな旗で印がついていた。

「お母さん、地図を見てください。オーストラリアはこんなに大きい、日本はこれだけです。家の狭いのは当たり前ですよ」と細い棒を持ち交互に国を指しながら話をした。

校長の説得に負けてしまった。1週間学生を預かることを承知して学校の門を出た。

留学生が学校から帰ってくると「こいつはすげー」「こりゃーうめえー」クラスメイトが教えるのだろう。毎日新しい言葉を覚えてきた。

高校受験を控え勉強していた娘は、留学生

をしっかりと観察していた。机の上で勉強しているより留学した方が早く英語が身に付くことを悟った。

留学生は1週間のホームステイが終わり、他の家に移動して一段落ついた。しかし娘の頭の中から留学の文字は消えなかった。

娘はアイルランドに留学した。学校が夏季休暇に入ると寮を出なければならない。16歳の娘がアイルランドのホストファミリーや多くの人にお世話になった。それを還元することにした。結果27年間ホストファミリーを続けている。

●ジェイソンと桜吹雪

アメリカ人ジェイソンは、日本の大学に留学し、我が家に1年間ホームステイすることになった。日本語は初級だ。右(みぎ)左(ひだり)と表に日本語、裏に英語を書いたカードを何枚も作り、毎日漢字を覚えている。

9月に来日し、翌年2月で前期の授業が終わった。後期授業は4月から始まる。

春休み中は友達のアパートで過ごしていた。夜遅くまで遊び、昼過ぎまで寝ているようだ。桜が咲き始めた事も気がつかないだろう。桜の花は1週間しか持たない。日本にいるのに花見を楽しまない方はない。

何度も携帯を鳴らし、市ヶ谷まで出てくるように言った。眠そうな目をしながら、友達と一緒にやってきた。市ヶ谷駅近くの土手に咲くたくさんの桜は満開、とてもきれい。その花の下にシートを敷き車座になり食べた



り、飲んだり、皆楽しそうにしている。その光景を眺め、歩いていると、ちんどん屋さんの鉦、太鼓の音が聞こえてきた。そばに行っ
て見ていると「どうぞ、座って下さい、まだ
まだいろいろな出し物が有りますから」と誘
われるままに、輪の中に入れてもらった。目
の前にジュース、せんべいなどが並べられた。

「どうぞ、食べて下さい」見ず知らずの人
に声をかけられ、2人は戸惑っている。

「オカアサン、知っている人ですか？」

「知らない人よ。お花見は、このような事
が有るから楽しいのよ」と話した。

チンドン屋さんの芸が終わり、他の人がア
コーディオンを弾き始めた。いろいろな芸を
持っている人が集まり、毎年この桜の下で会
うことになっていると言う。着物を着た若い
女性が琴を弾き始めた。琴を弾く人の指を見
るためそばに行き、演奏を聴き、質問をし
たり、2人の緊張もほぐれてきた。

「見せてもらい、聞かせてもらったから、
次はジェyson達の番ですよ、出し物は何」
と言うと、2人は立ち上がり、軽快な音楽に
合わせ踊り始めた。体をくねらせ、頭をふり、
足を動かし、手を動かし踊っている。いつも
六本木、渋谷のクラブに出かけているが、夜
を徹して、このように踊っているのか？一緒
に体を動かしたくなってきた。

「ごちそうさまでした、ありがとうございます
ました」と大きな声であいさつし、その場を
離れた。桜を見ながら、靖国神社まで歩いて
行った。神社の境内に屋台が並び、焼きそば、
焼き鳥、よい匂いが漂ってくる。好きな物を
買いなさい、と言ってお金を渡した。どこの子
も同じようだ、お金を握りしめ、店の前を行
ったり来たり、品定めをしている。

「オカアサンモ食べる？」と声をかけてく
れた。大きな肉の串焼きだった、美味しそう
に食べている。お腹も少し膨み、桜を見る余
裕がでてきたようだ。

風が出てきた、花びらが風に舞い始めた。

2人は花びらを受けとめようと、両手を広げ、
風といっしょに花びらを追いかけている。小
さい子供のように、いつまでも追いかけて遊
んでいる。満足しきった顔で、

「さくらが、きれいすぎる。オカアサン、
さそって来て、ありがとう」と言った。

●あしがき

「還暦過ぎたら今まで経験したことの無い
事に挑戦すると良い、脳の活性化になる」と
言う記事が心に残っていました。

私は長年留学生を預かっているのですが、その
生活を書き遺したいと思い、苦手な文章を書
くという事に挑戦しました。そして7年間書
き続けてエッセイ集にまとめた本を昨年出版
しました。異文化交流に関心ある皆様にご一
読頂ければ幸いです。



●VISAと旅日程等

編集部の方から、「ミャンマー」の感想を書くようにとの依頼がありました。

16年春季号で、関西支部の「十河和夫様(No.1391)」が、沢山の参考文献を読まれて、お書きになった格調高い「ビルマで感じたこと」を拝読し、当方、怖気づいてしまいました。

しかし、お引き受けしたからには、何か書かねばと、思案の結果、格調高い内容や文章には自信がありませんので「ミャンマーの庶民の暮らし」に軸足を置いて書いてみました。

旅日程は、一昨年('014.12.31(水)~'015.3.16(月))の約半月の小旅行。マレーシア航空使用。タイのチェンマイから、ミャンマーの首都ヤンゴンへ。往復チケット代は、27,135円は、チェンマイで購入。

VISA・必要：観光VISA取得費用(3,000円)。

●ヤンゴン クインズパークホテル1泊65\$

タイのチェンマイから、ミャンマーの首都ヤンゴンへのフライト時間は、約1時間。

到着が夜の7時近かったため、空港からホテルへの道のりは、薄暗くてよく見えなかったが、街路樹が美しく、ミャンマーらしい建造物も見えて、想像よりも美しいと思った。

空港から乗車したタクシー運転手に「スーチーさんは今、ヤンゴンにいますか?」と聞いたところ、「昨日ソウルから帰って、今はヤンゴンにいるよ。あなたは、スーチーさんを好きか?」と聞かれた。会ったこともないスーチーさんを好きでも嫌いでもないが、一応「好きだ」と答えたところ、「そうか」と、車の日除けの陰から、スーチーさんと、アウンサン将軍の写真を取り出して、「僕も」と、私にウインクして写真を見せた。

まだ、彼女の写真を見るところに貼っておけないお国の事情があるようだ。

この晩、1泊65\$と、東南アジアにしては、

高いホテルに投宿してみた。外観は立派に見えたが、室内の老朽化が目立つ。家具調度品の古いのは気にならないが、電灯が暗くてガイドブックを読むのに苦勞した。

バスタブのお湯はぬるいうえ薄茶色。タオルもハンカチもすぐに紅茶色に染まった。寂しくらいお客が少ないから仕方ないか?

●日本語堪能なスタッフが…。

翌朝このホテルの朝食は、フライドライス・焼そば風と言ったビルマ料理が主なのだが、洋風のものも、それなりに揃っていた。ビルマ料理は、あまり辛くなく、出汁が良く取れていて、どれも美味であった。宿泊者はビルマ人が多く、観光客は数人だった。

朝食後、ミャンマー一周のためのチケットやホテルの予約をしようと、現地の旅行代理店に出掛けた。不得手な英語を数時間話す覚悟で出掛けたのだが、ここのスタッフの何人かは、日本語が堪能であるうえ、事務能力が高く、インターネットを駆使して、即答してくれた。嬉しい誤算であった。

私の担当者のゾウゾウアウン氏(30代半ばの男性)は、大学で、日本語を学んだほか、2年間ほど日本に滞在経験もあると言っていたが、異国でこんな気持ち良い経験は珍しい。数時間にわたるスケジュール調整で、昼近くまで掛かった。

帰り際、スタッフの女性が野菜と豚肉たっぷりのミャンマー風焼うどんと、コーヒーを振舞って下さると言う、オモテナシを受けた。

ゾウゾウさんは、足首までの綿の巻きスカートを履いていて、大股で歩くと、太ももまでが、チラッと見えて、艶めかしい。この巻きスカート暑い国では、さぞ爽やかであろうのう!多くの男性が着用していた。

●ヤンゴンの庶民の暮らし

この日の午後、ヤンゴン市内を散策してみ

た。市の中心部へ行く予定であったが、方向を間違えて、住宅街に歩いてしまった。ここが、一般的な庶民の暮らしなのだろうか？

道路の両側はドブ川で、酷い悪臭を放っている。生ごみが至る所に捨ててある。住宅の殆どが高層アパートで、どの家も、間口が1間～1.5間で、大家族で住むにはあまりにも狭い。例外なく、ベランダに衣類を山のように引っ掛けて、押し入れ代わり(?)にしているようだ。旅行者など誰1人いない。

汚れた服を着て、埃っぽい汗まみれの子供達が、奇声を上げながら走り回っている。ヤンゴン中心部に近い市内にこんな汚いところがあるとは、驚きだ。

ここは、旅行者のくる知ところではないと、引き返そうと思ったが、後悔先に立たず、後ろで、男性の野太い声が聞こえた。「▽×◎◇～△×○」文言は分からないが、私に何か言っていることだけは直ぐに分かった。恐る恐るそっと振り向くと、彼は私の帽子を持って差し出している。拾ってくれたのだ。申し訳なさに深々とお辞儀をして受け取った。強面のお爺さんの顔がほんの少しほころんで何か言った。「◎◇～△× (気を付けろや!)」多分、そう言ったのだと思う。良い人達だ!



庶民の暮らし振り

●マンダレイ ユニティホテル 40\$

ミャンマーからマンダレーへは、航空機を使った。インレイ湖経由であったため、1時間30分掛かった(直行便は1時間)。今時珍しいプロペラ機で、冷房が殆ど効いていな

い。冷房嫌いな私は嬉しかったが、西洋人達は暑さで、赤鬼のような形相になっていた。

マンダレーの空港に着いたときは、緑が多く、空気は澄んでいた。しかし、マンダレー市内に近くなると生臭いような生活臭と車の排ガスで、薄茶色の霧が掛かっている。車の窓を閉め、ハンカチで鼻と口を覆う。舗装のないところが多いため、市内の街路樹には土埃が茶色に溜まっている。

冬のこの時期、約6か月間殆ど雨が降らないからだと言う。フツと思った。環境汚染している、こういう国に沢山車を売っている韓国や日本企業に責任はないのだろうか？

日中は暑くなるが、朝晩は我がホテルの部屋にも暖房が入るくらい冷え込む。石油で暖房しているらしく、排ガスの臭いが室内まで入ってくる。湯船は付いているものの殆ど水に近い温度なので、日中陽のある時間に入浴することにした。

今のマンダレーは、酷すぎる。何もかもがこれからの若い国で、我々が、長期滞在するには少し時間が掛かりそうだ。「アジア最後のフロンティア」とTVなどで見た通りだ。

ホテルの朝、コーランの礼拝の声で、目が覚める。ミャンマーの85%が仏教徒と聞いていたが、4%くらいはイスラムの人もいるとのことでした。

中国系のこのホテルには、15歳17歳19歳のあどけなさの残る男女の従業員が、毎日部屋掃除に来る。その都度、彼らはパソコンを持っていないのに使い方を教えて欲しいとせがまれた。向学心が旺盛なところも、かつての日本人のようで、親しみを覚えた。

夕方、サンセットを見にホテルの屋上へ。あいにく大きなビルの陰でサンセットは見えなかった。が、そこで見たものは従業員が大きな金ダライで、シーツ類を手で洗っていた。

結構大きなホテルなのに、洗濯機がまだ入っていない。従業員達は、この大タライで、行水をし、お風呂代わりにもするとのこと。

快適を望むなら、1泊3～500\$が必要とか。

●マンダレーの優秀ガイド

ヤンゴンの旅行代理店で手配済のチケットを、このホテルに届けてくれることになっている。だが、このミャンマーで、約束通りには届くまいと、ある程度は覚悟していた。

ところが、ホテルで朝食を取っている8:30ころ、「日本からのお客様で、平澤様いらっしゃいますか？」という流暢な日本語で40代と思しき女性が私に近づいてきた。中国人、韓国人とアジア人旅行者が何人もいる中で、「なぜ私が日本人と分かったのですか？」と尋ねると「あなたの仕草や、歩き方で日本人と分かる」と言われた。「どことなく日本人はひ弱な感じがする」とも言われた。「そうかなー？」と肩を怒らせて見ても、彼女にはひ弱に見えたのだから仕方がない。

チケットの受け渡し・注意事項等をテキパキと説明してくれた。感じの良い対応に、まとも嬉しい誤算だ。彼女の名前は、チュチュさん。本当はもっと長い名前なのだが、省略。

彼女は、日本に来た事はないと言ったが、日本語はかなり淀みなく話せる。「どこで日本語を習った」のか聞いてみると、ミャンマーの外国語大学・日本語学科卒とのこと。外国人特有の訛が殆どなかったのも、かなりレベルの高い大学だと思った。

渡りに船！彼女にミャンマー事情等も教えて頂きたいと思い、この日の午後半日、観光ガイドをお願いした。彼女の会社の了解のもと、ガイド料30\$ タクシー・チャーター代35\$で折り合った。

実を言えば、暑さと酷い埃っぽさに怖気づいて、ガイドブック片手に1人で観光は無理との判断からだ。

午後からの約束であったが、朝食後、彼女のサービスで、ホテル近くの朝市に案内してくれた。野菜・果物・魚を始め、乾物から衣類、履物の類まで、およそ人の生活に必要な物は何でも売っている。キラキラ輝く太陽の

下の巨大な露店マーケットだった。半年も雨の降らないこの地のどこで、こんなに瑞々しい野菜や果物が取れるのか不思議だ。

道中、陸橋の下で暮らすホームレスの母と子供3人の一家を見た。痩せて埃にまみれていたが、ゴザのうえでヤカンから直接水を飲み、戯れている子供の姿は痛々しい。見てはいけないものを見てしまった気がする。



露店の市場の様子

●自慢の旧王宮・金ぴか寺院群

午後1時私を迎えに現れた車は、日本車のトヨタであった。中古車と言うが、新車同様に快適に走る。冷房もちゃんと入った。

お決まりの観光名所の旧王宮だの寺院の説明を聞きながら廻る。寺院に入る度に靴下まで脱がされる。素足で砂利道を歩かされた時には、目から火が出るほど足裏が痛かった。

寺院の多くは、質素な人々の暮らしと似つかわしくなく、一見、絢爛豪華に見えるが、私の心を打つものはなかった。

だが、ここに住む人々は、熱心に祈り、お願い事(?)をしている。この行為を惰性とばかりは言えない気迫のようなものを感じた。

神様を持たない私には「猫に小判」だった。

●ミャンマーの給与水準

観光の休憩時間に、ミャンマーの生活水準等について、ガイドのチュチュさんに伺った。

電化率と言えば、殆どの家にTVは入っているが、洗濯機や、冷蔵庫、エアコン、レンジなどは入っていないため、家庭を預かる主婦は、特に洗濯に苦勞しているとの事。ガス・

水道はまだ一般家庭にはなく、マキや炭火で、炊事をしていた。

給与水準は、学歴のない店員クラスは、6万K(キップ)(6,500円)くらい。一般の会社員12万K~20万K(13,000~21,500円)くらい。英語や日本語ができると15万K(16,000円)くらい。ゾウゾウさんのように、2か国語ができる人は、30~40万K(32,000~43,000円)とのことだった。日本の60年以上前の給与水準であろうか？

中国・韓国の企業の進出が目立った。チュチュさんは、日本語専攻なので、日本企業が来ることを心から願っているようだった。

私が訪問した折、日本企業は80社ほど、とガイドブックに書いてあったが、最近の新聞報道によれば、200社以上と1年ちょっとで倍以上に増えたことになる。正に、アジア最後のフロンティアの感がある。

●夢のようなマンダレーの原風景を見た！

観光の目玉である王宮や寺院に深い関心を示さない私に、チュチュさんが「本当のマンダレーを見せてあげる！」と、連れて行ってくれたところが、市の中心部から車で40~50分アマラプラ「不死鳥の街」。

かつて都だったこともあるこの街の今は、織物の街として、街を歩くと機織りの音がどこからともなく聞こえてくる。

だが、この見どころは、この街ではなく、エーヤ川と、タウンタマン湖に掛けられたウーペイン橋という全長1.2キロのチーク材(木の名前)でできた長い橋だ。160年前に作られたと言われているこの橋は、途中休憩ができる屋根付きの場所もある由緒深い橋なのだが、老朽化のため、大きな穴も開いていて、湖面が見えるところもある。

夕暮れ時のこの橋のシルエットと、遠くに見える樹木に薄紫の霞が掛かったような風景は涙が出るほど美しい癒しの風景だ！

豊かな水と、緑のこの美しい郊外の風景こそ、ミャンマーの宝だ！！



ウーペイン橋から見た夕日

●ボロ馬車に揺られてバガンへ スカイプレスホテル55\$

マンダレーからバガンへは長距離バスを利用した。朝8:30定刻に出発。午後1:30着の5時間のバス旅。中国製のバスは、リクライニングもついていて、快適に走った。料金は6,000K(645円)。5時間も走ってこの料金は安いと思う。紙おしぼりと、水500cc1本のサービスがあったが、昼食は付いていない。

バスは、バガンの街中ではなく、ニヤウンウーと言うところに着いた。ホテルまでは、かなりの道のりがあるため、車か馬車に乗る必要がある。車で15~16分のところ、御者の口車に乗せられて荷車のようなボロ馬車に乗ったのが間違いで、炎天下を1時間ガタゴトと走り、熱射病になりそうだった。しかも、このボロ馬車に10,000K(1,075円)も取られた。5時間乗った今朝のバス代が、6,000K(645円)だったのに、風情があるなどと粹がって乗ってしまった自分の責任ではあるのだが…。

たどり着いたホテルは清潔で快適であったが、観光客らしいお客の姿はなく、私の他は地元のお客達が10人くらいしかいない。観光客の多くの若者達は、格安の相部屋に泊まっているらしい。

●バガンの有り難い寺院群観光へ

バガン観光の目玉の寺院群は、このホテルから少し遠いため、徒歩では無理と分かっ

た。若者達は、Tシャツ・短パンで、自転車で颯爽と廻っている。私は、急勾配の坂道をガタガタのレンタル自転車で、走るのはとても無理なので、タクシーにした。20,000K (2,149円) ボラレていることは分かっているが、致し方がない。齢を取ると旅も高がつく！

26にも及ぶ大小の寺院群は壮観で、見る人々を圧倒する。仏教や仏教寺院に興味ある方々には、魅力的なのであろう。この壮大な寺院群も、私には「猫に小判」であった。

神仏の悪口を言うようで気が引けるのだが、これほどまでに寺院を必要としていたと言う事は、現世の暮らしが苦しく、来世に期待したという事に他ならない！と、言っでは見たが、最も古いアーナンダ寺院等は1090年の建立と言うから、千年近くも昔の人々の暮らしは、洋の東西を問わず、みな貧しく、さもありなんと納得した次第。

●日本食レストランで

ハードだった寺院巡りで、珍しく空腹を感じて、遅めの昼食をと、タクシー運転手に告げると「良い日本食レストランがある」と言うので、連れて行ってもらった。

寺院群から、近い場所にあるためか、欧米からのお客でほぼ満杯であった。日本人は私1人。けど、ここをレストランと言うか？

よし掛けのソバ屋風の食堂で、名前は「Fujiya (ふじや)」。欧米の人達はトマト入りの冷やしうどんや、冷や麦をすすっている。

私は、日本では3年に1度も食べない「かつ丼」をなぜかこの時頼んだのだ。料理人が日本人なら、そう酷いものは出すまいという安心感からだ。値段は、3,700K(約400円)

料理人は、53歳の日本人普通の男性で、ミャンマー人の奥さんと子供3人でこの地に18年住んでいると、彼の奥さんが教えてくれた。

出てきたかつ丼のお味は、これほどマズイ

料理はめったにない。肉の味も、玉ねぎの香りも醤油色にかき消されて、味覚音痴かと思うくらいの酷いものだった！塩辛いだけ！

でも、残すのは申し訳ないと思い、我慢して口に押し込むようにして半分近く食べた。

料理人の顔を見たいと思って厨房へ行ってみて見た。アーこの有様を、食べる前に確認すべきであった！！床は汚れ足の踏み場もないほど野菜くずや、新聞紙等でゴミの山。まな板は、傷だらけで黒茶色に汚れている。

食べた後は、気持ち悪いゲップが出てきただけであったが、夕方散歩がてらホテルの近くの民家を見せてもらっている時、急に腹痛と尋常でない吐き気に襲われた。

ホテルの自室に着くや否や、5度も吐いたが、吐き気は止まらず、夜通し下痢と吐き気に苦しめられ、一睡もできずにトイレで朝を迎えた。昨夜の夕食も、朝食も昼食も食べていないのに、全く空腹感がない。あのカツ丼は魔が差したとしか言いようがない。午後2時過ぎ激しい下痢は止まった。もう出る物が無くなったのだと思う。自分の胃や腸に土下座して謝った。ホテルの計らいで、午後3時まで無料で延長していただき、助かった。

●陽気なカナダ人と

吐き気・腹痛・倦怠感にこれ以上観光する気力が失せ、ヤンゴンに戻ることにした。

バガン→ヤンゴン間は飛行機で約1時間のところ、またぞろ私の「何でも見たい病」が頭をもたげ、この国の列車に乗ってみたい気持ちに負けて、チケットを買ってしまった。(118\$ (10,620円))。高！

バガン発午後5時、ヤンゴン着は、翌朝の11時、何と18時間のジーゼルカーの旅。コンパートメントが1車両だけ付いていることに引かれて乗ってみた。私の食べ物は、クラッカー少しと、水500ccのみ。

途上国の列車にありがちな、シーツの交

換もなく、掛ける毛布もない。勿論、間仕切りのカーテンもついていない。

このボロ電車の同乗者達は、中国人の1家族と、日本人の私を除けば殆どが欧米系の白人達だった。物好きとしか言いようがない連中ばかりだ。でも、我々はその高くて粗末さをガッテン承知之助で乗車しているのだ。

コンパートメントの相客は、年配のカナダ人夫妻。陽気な妻と、シャイな夫。

この列車、自転車よりは早い、車より遅い。しかし、豊かな緑の中を走るのには丁度良い速度だ。カナダ人の妻が「日本は清潔なんだってね！私の娘が言っていたわ。でも私達は年金生活なんで、物価が高い日本には行けないわ」と話し掛けてきた。

話しながら、いろんな食べ物を勧めてくれたが、私は腹痛と、だるさで人と話すのが億劫であったが、日本を褒められたことで、一生懸命付き合ってしまった。彼らの食べるオレンジの香りが爽やかで、少し元気が出た。車窓の人達に手を振ったり、のべつ喋っている奥さんと、18時間の間に「この列車遅いですね」と私が話しかけた時彼

は「そうさのう」と答えただけの好対照のご夫婦だった。

●再びのヤンゴンシテイスターホテル118\$

カナダ人ご夫妻は、駅の近くの1人10\$の水シャワーの部屋に行くと言っていた。多分ドミトリ（何人かと一緒の相部屋）なのだと思う。体力があるな—カナダ人！

宿泊代100\$でも悪いとも言えないが、それほど良いホテルではなかった。

事務能力が高く、誠実・勤勉な気質が日本人とよく似ていると思った。旅行中不愉快な思いを一度もしなかった。

出発前、ヤンゴンの旅行会社のオフィスに忘れた赤色ボールペンが、私の宿泊ホテルのフロントに届いていたのに感激した。

●ミャンマー雑感

- ・ホテルでも、街中の食堂でも、喫茶でも、椅子やテーブルの脚に、フェルトが張ってあって動かしてもキイキイ音がしない。
- ・広場や、公園、家の中の階段の高さが、概ね均一で人間工学に沿っている。
- ・例外はあるが、食べ物出汁がよく取れていて、味が良かった。

私のロングステイ

関西支部 No.1386 稲富 惇浩

●第一章 ロングステイへのアプローチから

今日は、ロングステイを振り返りお話をさせて頂きたいと思います。最初に興味を持ち始めたのは2001年頃だったと思います。しかしその頃は、まだ、日本ではロングステイという言葉に馴染みがなく、ファミリーの中でさえ、何を考えているのか、程度の反応がせいぜいでした。

そこで、何年かは実働を控える日々が続きました。その間、候補地の絞り込みの名目で各地を周りました。その頃だったと思うのですが政府がコロンビア計画、つまり第二の人

生を海外でエンジョイする好機と言う命題で、実は老人医療費削減を狙った海外移住促進策を打ち出しました。後に、各国の批判をあび、この戦略は頓挫するのですが。批判パーティー曰く日本はオールドエイジジェネレーションの人達まで輸出するのか。当時担当省庁が候補地の一つとして推奨していたのがスペインでした。ともあれ、コマーシャルに吊られ、スペインは、コスタデルソル（最高の保養地）に家内と一緒にでかけました。かの地はボスボラス海峡をはさみ天気がよければ、アフリカ大陸が望めるスケールの大きな保養地でし

た。ハワイを凌ぐ景観とその規模に圧倒されました。遙か眼下にジブラルタル海を抱き、そびえ立つ傾斜地の中腹に完璧に舗装された道路を挟み20キロにわたり別荘地が続く様子は圧巻でした。次に挑戦したのが、ウェストコースト。アメリカ西海岸の各地、北からシアトル、ロサンゼルス、サンフランシスコ、サンディエゴ、ついでにメキシコはティファナまで足をのばしました。よし悪しはありますがサンディエゴが候補地になりました。その当時米国人の逃寒、逃暑の一般的なスタイルとして定着し、特にリタイア組に人気があったウインターシーズンは南のフロリダ、又はその近郊。サマーシーズンは北のシアトルで過ごすのがステイタスでした。更に時をささみ、カナダはバンクーバー、ヴィクトリア、バンフと、いずれもロングステイには絶好の地域でした。残念ながら、語学力が大きな壁になりました。候補にあったのはヴィクトリア。ここは、バンクーバー島にありダウンタウンからシャトルバスならぬ、シャトルボートで40分。落ち着いたリゾート島で、島の傾斜地に各棟がほど好い間隔で位置し、眺めの良さ、海の幸、流れる時も、心地好い。更に、オーストラリアが良いとのインフォメーションに誘われ、ゴールドコースト…、パースと足を運びました。東海岸ゴールドコーストは乾燥地帯との判断でアウト。パースは西海岸に位置し、当時はロングステイ候補地ベスト3の一つと言われていました。なるほど、の



カナダ バンクーバー島

どかな地ではありました。ただ、宿泊インフラが思う程ではなく、更に日本との季節バランスに欠けると思われました。漂流は続きアジアへと歩を運び香港、タイ、マレーシア、ベトナム、インドネシアをリサーチしました。当時、ロングステイヤーにとって一番生活費が安いと言われたのがマレーシアのペナンとタイのチェンマイだったと思います。香港は英語力アップに、あるいは日本に近いとの理由でトライ。しかし、アコモデーションに問題有り。ベトナムしかり。タイのチェンマイは季節選択を誤り3月に訪れたので暑さ、寒さに弱い私は暑くてとても滞在出来るものではないとの判断を下してしまい、後に後悔に至りました。

マレーシアのペナンは当時ロングステイの先輩、木村氏が滞在先の推奨 No.1 におかれていた先。偶然、木村氏宅に訪問の機会を得ました。事前連絡もせず、空港で声をかけた日本人夫妻とご一緒に、しかも突然の訪問にもかかわらずご夫婦で心良く迎えて頂きそのことが今でも、印象深く心に残っております。私にとっては初めての長期滞在者の部屋の見学で、ロングステイが現実になるとの思いを深くし、心がたかぶったのを忘れません。後に私達はマレーシアのクアラルンプールから4時間、ペナン島から5時間の海拔1,500m、キャメロンハイランドに長く滞在する事になります。このような流れのもと、最終的にキャメロン、そこで得た情報によりインドネシアはバリ島へと繋がっていきます。

長期滞在の最初の場所キャメロンへは2006年の3月と記憶しております。ここでの体験がその後の私達の長期滞在のバイブルとなりました。

心のケア、体のケア、まさに第二の人生絶好の場であり、更に先輩諸氏のさまざまの生活、生き様から忘れえぬ時をたくさん得られる期待が湧きあがりました。まさに、思い出

作りを楽しむにふさわしい場であると感じ、かけがえのないものを得られる喜びだったと思います。生きる力が湧いて来るとも思われました。



インドネシア バリ島

●第二章

長期滞在の最初の数年は、海外旅行の延長の感が有り、立ち位置が掴めず、その時々感動に慕っていました。その後、滞在スタイルを長く続けていらっしゃる方々は滞在そのものが、生活の一部になっているのではないかと感じるようになりました。そこで、自分達の長期滞在における立ち位置が見えてきたと思いました。まさに長期滞在が私達の年間スケジュールにかっこたるポジショニングを取るに至りました。その間、多くの方々との出会いが有りましたが、人間関係の難しさ、楽しみ方の難しさ、滞在スタイルのありよう、スケジュールのアレンジメント等々。勉強させて頂きました。また、人の紹介が思わぬ波紋を生み、大変失礼な結果となり恐縮の極みの状況に至った事も有りました。人は、それぞれが心の中にルールをもち、対峙する方にも同じルールであって欲しいと願うものですが、あまり度が過ぎると、不協和音が生じているのにも気がつかず、錯覚強制、わがままがエスカレート…。作法に適ったものから外れ、皆に疎まれ孤立、退場のやむなきに、至る方も散見されました。もともと、人そのものに興味がある質ちですが、最近、ひと

の個性とパーティーとの関わりをより考える機会が有りました。滞在先において、ある具体的なアジェンダを持って、発言に制限を付けずにフリーディスカッション形式で議論をすると個々の強烈な個性を改めて全員から感じます。どなたも、自己主張を、抑える事が難しいようです。なかなか譲りません。また、人の意見を聞こうとしません。勿論自分も含めてです。長期滞在を軸にしたものですが、群れを好まない人、なかでも全く人を寄せつけない方、群れを好まないが旨くパーティーとの距離感を保ち、それなりのスタイルを堅持されている方。群れに寄りかかる方。つまり、現役世代の頃は社会の規範、会社の規範、会社にあっては、かっこたる共通目標を共有したなかでの所属であり、コミュニケーションであったのが、リタイア後はそれと異なる環境におかれ個性がより鮮明になると思います。さらに、これは一里離れりゃ旅の空の下、感覚で一番自分が主張しやすい環境であるのが要因となっているのも否めない事実だろうと思います。個々との繋がり、個々とパーティーとの繋がり、信頼関係構築の難しさを垣間見たように思いました。

更に日本人コミュニティーにおける世代交代を目の当たりにし今後を考えるきっかけともなりました。

また、最近長期滞在との関連において、ローカルとの関わり、文化との接触、解釈、その文化を考えるにあたり、女性と男性の思考スタイルの違い、等々、興味が付きまといまいます。それにしても、文化の違いがこれ程まで価値観の違いを生じさせるとは思いもしませんでした。凄まじいものです。人を知り、文化を知り、ローカルの文化をより知りたい。そもそも文化とは？定義、そのものが私には明確になっておりません。文化と習俗習慣、あるいは生活習慣との違い、文化の方がよりクリエイティブなものの様

に思えるのですが。文化との関わりは言うまでもなく政治、経済、歴史、伝統、文学、宗教、芸術等々、さらに、考え方、一つ一つが大きく影響していると思いますが、関わりをたんてきに解釈すると、例えば宗教を取り上げれば何世紀も前に国を統治する手段として宗教を利用した国も有り、一方保守路線の強い国はそれなりの文化が育まれて今日に至っていたりします。つまり、宗教色の強い国はそれを軸に文化もそれなりのものになっている。保守路線の強い国は他国の文化を容易に理解しようとはしませんし、勿論その他の要因も加わってその国の文化を育んできています。また、固有の文化を大切に続ける世界もあります。それでは、我が国のそれは、日本文化に独特なものを挙げるとキリがありません。それぞれの文化（食、被服、文学、芸能…等々）に日本にしかない独特のものが見出せます。それほど、文化の違い、習俗習慣の違いとは強烈なもののように思えてなりません…。とはいえ、文化、習俗習慣の違い、それが明確にならない今も興味が萎えません。現地での人、文化との接触をよりスムーズに展開させる方法として、浮かぶのがまず、現地の言語の習得、ボランティア、宗教、日本語教師、武術の心得、現地人とのカップル等々、どれも現地人の生活の中に比較的簡単に入り込める手段になり得ると考えます。勿論、これ以外の手段で現地人と接触し深く入り込む事でよりその地の文化に近づく事も考えられますが、日本人の選択肢としては危険性が高いと思われます。トラップに嵌まる可能性あり、注意と言う事ようです。現実によくある話でもある。かといって前述のそれが安全を担保するものでもありません。

もっとも、言語の習得と言っても、例えば英語に関して言えば、英語表現を日本語訳を通じてのみ理解させるのは至難の技と

言わざるを得ない。日本語訳の向こう側に進まなければ英語表現を完全に理解できませんし、日本語訳しか知らない単語は人の心と結び付きません。人の心に響く何かを持っていないと難しいのです。他の手段にしても同じことが言えると思います。ボランティア、宗教、等々しかり。心に響く何かを訴えなければローカルとの、文化との接触は薄いものになってしまうと思うのです。だからと言ってそれだけでは簡単に文化を理解出来るというものでもないようです。先にあげた、生活習慣の違いのレベルで疲れ、文化を良く知るまえに、面倒になって文化への思考からはなれてしまうケースもしばしばです。いずれにしても、文化、生活習慣の違いをテーマにもう少しの間、挑み続けたいと思っております。見据えるゴールはまだ先にある。長期滞在生活で良かった事は国内のそれと比べより広く、深く人との関わりが持てた事。語学研磨の時間がとりやすかった事。自分の祖国について考える機会が出来た事。また、愛郷心が芽生えた事でした。いずれにしても、晩節を汚す姿を見せたくないものです。



フィリピン ジャックフルーツ

南国写真サロン



ヨルダンのペトラ遺跡
No.1136 大野 京子氏



ラオス特別区ドンサオ市場にてサソリ酒
No.1706 北川 博敏氏



ボンサーンの傘祭り
No.1539 柏崎 明氏



ホーチミンの教会で鳩が飛んでくれました
No.1634 長田 隆秀氏



ルアンパバーンの少女
No.1737 伊藤 敏男氏



ヤンゴンのシュエダゴンパゴタ
No.1476 野田 文藏氏



ミャンマーゴールデンロック
No.1793 山本 隆氏



ミコノス島の風車
No.539 有馬 憲三氏



カナディアンロッキー、夏のウイスラー
No.1297 白田 隆俊氏



イギリス・タワーブリッジ
勝鬨橋と同じく橋の中央で割れはねる
No.923 永田 隼人氏



タイ・スリンの象祭り
No.1631 飯島 省藏氏

ニュージーランド一周3,000キロドライブ

北海道支部 No.742 池田 邦彦・恵子

●ニュージーランドは国土が日本の3/4で本州と九州を合わせた面積とほぼ同じ。人口は450万人程で北海道より少ない一方、羊は3,200万頭と人口の7倍もいます。

一昨年、昨年、いずれも2月から3月にかけて北島のハミルトンで70歳過ぎの夫婦でホームステイしました。この時期は北島では我々が住んでいる北海道の夏、南島は少し涼しく初夏の感じです。一昨年2月に夫婦で南島を中心に国内を10日間かけ、車ではほぼ一周しました。1995年式ミニバンタイプの日本車をホームステイ先から1日15ニュージーランドドル(当時のレートで1,500円弱)で借りました。私が運転し全行程は3千キロをやや超えました。



いたるところで見られる羊の放牧

●初日はハミルトンを出発し、首都ウェリントンまでの約600Kmを約10時間で南下。途中は牛や羊が広い牧場で草をはむと言う牧歌的な景色が続きます。

ここで同国の道路、ドライブ事情を紹介しましょう。車は左側通行なので違和感はありません。国道をはじめ大半の道路は制限速度が100Kmで、市街地は50～80Kmになります。覆面パトカーもいますし、要所、要所に自動速度測定器も備えられています。

国道何号線かを示す標識が日本より小さい上、数も少ないので、道を間違えたかと

不安になります。南島の橋は殆どが1車線なので、対向車が橋を渡っている時は手前で待たなければなりません。また、200Km以上ガソリンスタンドがなかったこともありました。機会あるごとに満タンにする心がけが必要です。

●ウェリントンは北島の南端にあり南島に渡る玄関口です。人口約20万人でバス路線が網の目の様に張り巡らされ、落ち着いた雰囲気のある街です。一泊し翌日、フェリーで3時間余りかけ南島の小さな港町、ピクトンに着きました。

港周辺は複雑な地形で大きなフェリーとヨットなど小舟が行き交い、港に面し綺麗な公園もあります。



美しい公園のあるピクトンの港

●ここからは、南島を南北に貫いている国道1号線で東海岸沿いを走り南島の最初の最初の目的地クライストチャーチへ。

2011年2月のニュージーランド地震で大きな被害を受けた街です。

シンボルである大聖堂は崩壊した無残な姿をそのまま残していました。

大聖堂から少し離れた場所に日本人建築家が設計し、ボール紙を筒状にした素材で造られた仮大聖堂が建てられていました。

日本人が震災復興に貢献しているのを目の当たりにし、大変誇らしく見学しました。

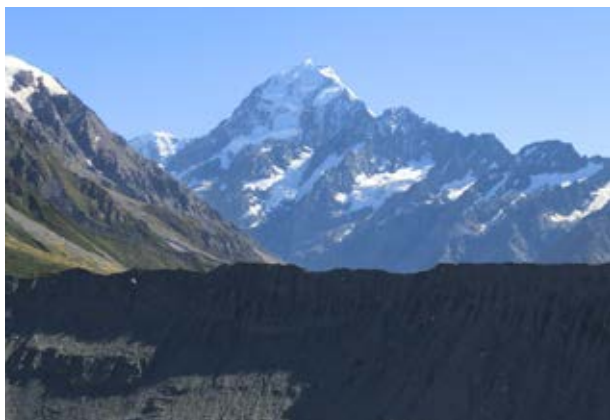


未だ崩壊した状態の大聖堂



日本人建築家が造った仮聖堂

● 4日目、クライストチャーチを後に、アオラキ・マウント・クック国立公園へ。ニュージーランド最高峰のマウント・クックは標高3,724m。近辺は年間の降水量が多いと聞いていたのですが、この日は雲一つない晴天。マウント・クックビレッジに近い展望台からは手前に氷河に削られた巨大な崖、その後方に雄大なマウント・クックの姿が間近に見られ感動しました。



氷河に削られた崖とMt.クックの雄姿

展望台を後にして、次の訪問地は、ニュー



クイーンズタウンの街

ジーランドで一番美しいと言われるクイーンズタウンです。ここに一泊して翌日、ゴンドラに乗りました。街の外れの高台の乗り場から10分ほどで標高790mの展望台に着きます。ここから眺められるのはワカティブ湖に沿って広がったクイーンズタウンの街並み、湖に突き出た半島、取り囲んでいる雄大な連山。息をのむような美しいパノラマでした。

●ここを折り返し点に、いよいよタスマン海に面した西海岸へ向かいました。

海岸沿いの道路は山が迫っている為、断崖に沿う様に造られており、日本海側の景色と似たところがあります。

西海岸でのお目当ては氷河です。出発して6日目にフォックス氷河ビレッジという小さな村に着き、氷河までは駐車場から平坦な砂利道を徒歩で向かいます。

氷河の先端が見える地点にたどり着きましたが、ロープが張られ、観光客は氷河の先端までしか近づけません。

更に25Kmほど北上すると、フランツ・ジョセフ氷河ビレッジです。氷河近くで興味深い看板を見つけました。2008年と2012年に同じ場所で撮った写真が並べられ、4年間で氷河先端が数百メートルも後退しているのです。訪れた一昨年でも12年より更に後退しているのが見て取れ、地球温暖化の恐ろしさを実感しました。

氷河を後に北上する途中、ゆうに100頭



フランツ・ジョセフ氷河

は超えた牛の大群が馬に乗ったカウボーイと共に道幅いっぱいにくっくり歩き、車が渋滞しているのにぶつかりました。

また、岩がパンケーキの様に数百枚重なっていたり、奇妙な形をした岩場など興味深い景色が随所に見られました。



パンケーキロックと呼ばれる奇岩

● 出発して9日目に南島を離れ、10日目に北島では往路とは逆に東寄りのコースを選び蜂蜜メーカーのビジターセンターなどにも立ち寄り、全走行距離3千キロ超のドライブ旅行を無事終えたのです。

お世話になったこの国の方々に感謝します。

フィリピン最後の秘境パラワン島を旅して(2016・12・07~11・12・13 7日間)

関西支部 No.1461 花田 日出夫

●1 はじめに

パラワン諸島には、パラワン島、ブスアング島及びコロロン島等があります。

これまで私は、このパラワン諸島に数回観光に行き、お気に入りの場所を見つけましたのでご紹介したいと思います。

私は海が大好きなので私の観光目的は主に海のビーチ・リゾートに行き青く綺麗な海を眺め、海岸沿いのレストランで、いっぱいやりながらおいしい海の幸を食べることです。

7~8年前までは、ダイビングをやっていましたが時々空咳をするようになり、ある時セブ島でダイブ中に空咳をして苦しい目にあったので、それ以来ダイブをやめ、アイランドホッピングをやってもシュノーケリング位にしています。

このようなことから、きれいな海で安上がりの観光旅行ができるような場所を探していましたがあるとき、セブパシフィック航空で安いプロモチケットを見つけたのでちょっと高くつくかなと思ってためらっていたパラワン旅

行をそれ以来時々するようになったのです。

ところで海好きの人へのパラワン島の私のお勧めはエルニドとコロロンです。

コロロンと一般的に言うときは、ブスアング島のコロロンです。

エルニドもコロロンもアイランドホッピングへいけば、透明度の高い綺麗な青い海、ホワイトサンドの手つかずの島、独特な景観のラグーンとほぼ同じ景色が広がっています。

でも、コロロンの場合は、空港周辺の気候が極めて不安定でマニラから発った飛行機がコロロン空港上空で30分旋回したが着陸できず引き返したことがあり、またコロロン空港の気流が悪く出発が2~3日後になった経験がありますので、コロロンへ行くときには、時期や天候の良いときを選んだ方がいいと思います。

今回の旅行は、パラワン島本島のみですのでエルニドを中心として記述します。

●2パラワン島の紹介

フィリピンが現在中国と国境争いをしてい

るスカボロー礁に一番近い島が、スルー海に面したパラワン州パラワン島です。

面積は11,785平方kmとフィリピンで5番目に大きい島で、熱帯雨林で大半が密林地帯になっており島の面積は四国よりやや小さな島です。

この島はほとんど開発されておらずフィリピンでは最後のフロンティアと呼ばれています。

島の形態は北東から南西に伸び、カタカナで「ノ」の字を書いたような細長い島です。長さは397km、横幅の平均の長さが約40kmです。

- ① パラワン州の州都は、ほぼ島の中央部に位置する「プエルトプリンセサ」です。
- ② 言葉は、タガログ語のほかビサイヤ地方語（セブ語）、英語等です。
- ③ 島の人々は、中央山地はパラワン人やバタック人等で焼き畑や狩猟を行っていた非キリスト教徒でしたが異色の文化が入ってきて、現在は島全体がキリスト教徒が多いそうです。
- ④ パラワン島の観光地ですが、大きく分けて州都のプエルトプリンセサからほぼ北東端のエルニド迄の間にあり、プエルトプリンセサから島の南西端までの間には観光地はほとんど紹介されていません。
- ⑤ 治安の面は、一般的にはフィリピンでもよい方とされていますが、パラワン旅行をする場合には外務省発行の「海外安全情報」を確認しておきましょう。
- ⑥ 道路環境は、現在はプエルトプリンセサからエルニドまで完全舗装されていますので心配いりません。

ただ、過去に日本のテレビでパラワン島を自動車で縦断する旅の番組をみたことがありますが途中雨で道路が寸断され自動車が立往生していました。

島を縦断する場合は、念のため雨季を避けるのが賢明かと思います。

ちなみに、パラワン島の雨季は6月から11月とされています。



プエルトプリンセサ空港で手荷物待ち

● 3パラワン本島の観光地

① エルニド

エルニドは世界的にも有名で、フィリピン人が一度は行ってみたいと憧れる夢の地です。

私はこれまでパラワン島を数回訪れていますがその魅力は何と言ってもエルニドにあります。

エルニドは1島1リゾートの豪華リゾートが主に紹介されていますので、懐と相談してとてもそんな豪華な所には行けないと思っておられる方がいらっしゃると思います。

でも決してそんなことはありません。

それ以外の綺麗な海や島、エキゾチックな街並みが待っていますよ。

手つかずのホワイトサンドの島やエメラルドグリーンの海は言葉で形容しがたい美しさを秘め、心地よい潮風によってバンカーボート（両翼ボート）でアイランドポッピング（島巡り）へ望めば私にとってまさに、



エルニド海岸島巡りに出発だ

この世のパラダイスと言っていいでしょう。

そんな神秘的な魅力が私をエルニドへと駆り立てるのです。

海好きな方は一度行ってみましょう。

上手く手配すれば安上りのエルニド豪華旅行ができますよ。

エルニドの街自体をご紹介しますと、エルニドの街はごく小さな街で、中国の桂林の山のような釣り鐘型の山が海の中に散在しており、海岸から海を見る風景は独特の趣が感じられます。

エルニドの街の観光としては、街は小さいので歩いて30分もあればほぼ一周できます。

街を散策し小物雑貨の店でアクセサリを探し、立ち並ぶ露店でELNIDOと記載され、かつヤシの木の絵の入ったTシャツを探したりするのも楽しいものです。

Tシャツ等のお土産は、露店ではかなり値段が違うので何軒か見てみましょう。

レストランは、海岸沿いにフィリピンレストラン、イタリアンレストラン等の店が沢山あり食事に困ることはありません。

夜になりレストラン「スクイドス」で潮騒をバックグラウンドミュージックにして、キャンドルライトの灯りのもとで、新鮮な魚をあてにして一献かたむけ至福のひと時を過ごしましょう。

街だけでなくその周辺を散策したい場合はバンまたはトライシクルを借り切り、海岸線沿いを走り裏エルニドまでいけば綺麗なビーチが見られるでしょう。

(エルニドのアイランドホッピング)

ア パッケージツアー(4コース 乗り合い)

A、B、C、Dの4コース(各コースひとり1,200ペソ~1,400ペソ)

4コースすべてが別々のところへ行きますので4日間かけてA B C Dと回ればすべて行けることになります。ラグーンでは、カヌー(1H300ペソ 2~3人乗り)を

楽しみましょう。シュノーケルも可能です。

時間は朝から夕方までほぼ一日コースで、豪華ランチ付きです。



豪華なランチ



ラグーン内でカヌー遊び

街の中のいたる所に案内所があり、すべて同料金です。

もちろん宿泊ホテルどこでも取り扱っているようです。

イ スピードボート(乗り合い)

パッケージツアーのバンカーボートをスイスイ抜いていきますので、より多くの島巡りができます。

申し込みは、海沿いのレストラン「SALANGANI」でひとり2,500ペソ

ほぼ一日毎週月のみランチ付きで運航しています。

ウ その他

ホテルによってはホテル専用のボートを所有しているところがあります。

宿泊ホテルに尋ねてみて下さい。

② その他の観光地

ア プエルトプリンセサ及び周辺観光

プエルトプリンセサはパラワン島の州都だけあって、ジプニー、トライシクル、バン等が行き交い繁華街は車や人で混雑し、人々の生活感に溢れかえっています。

タクシーはモールで少し見かける位で流しのタクシーはほとんど見かけません。

市街地の観光をする場合は、トライシクルのドライバーと交渉をするか、宿に頼んでバンを借りきった方がいいと思います。

プエルトプリンセサの主な観光地は、大聖堂と平和記念公園、蛍鑑賞 (Iwahig Fireflywatching Details 0916-780-9118/0929-616-5990 星空も)、天然温泉 (Kay's Hot Spring)

バタフライガーデン 0917-597-5544 等です。

ホンダベイのアイランドホッピングは有名ですが、行ってみてがっかりでした。たまたま海が引き潮だったせいか知りませんが、3島回って3島とも海岸が汚い小石等で泳げませんでした。

満潮時に行けば綺麗だったかもしれません。

お薦めのレストランは、景観が綺麗でシーフードが美味しい海辺の Badjao Seafront Restaurant です。

宿は、格安のトレスペンションハウス (ビビアンさん日本語上手でとても親切) をお薦めします。

イ アンダーグラウンドリバー (世界遺産)

宿で前日にバンを予約しておきますと、バンが宿まで迎えに来てくれます。

トレスペンションハウスからバンで約1時間45分で地下河川公園の乗り継ぎ港サバンビーチへ到着します。

そこからバンカーボートで公園入口まで20分ほどで到着します。

そこは地下河川国立公園になってお

り、かつ、ユネスコの世界自然遺産に指定されています。

全長約8キロメートルをボートで往復しカルスト地形にできた鍾乳洞の中を観光します。

所要時間は約40分です。

観光客が多いので休祭日は2~3時間待たねばならない時があります。



地下河川入り口

● 4パラワン島へのアクセス

日本からパラワン本島へ行く場合は、マニラ又はセブを経由し飛行機でプエルトプリンセサへ行ってそこを起点として移動するのが一般的ですが、エルニドにだけ行きたい場合は、料金は高いがマニラとセブからエルニドへの直行便がでています。

① プエルトプリンセサへのアクセス

マニラとセブからフィリピン航空とセブパシフィック航空が毎日運航しており、所要時間はマニラからだ片道1H45分、セブからだ片道1H15分ほどかかります。

チケットの値段は時期やプロモ期間等によってまちまちで片道約1,000ペソ~4,000ペソです。

私がパラワン本島へ行く場合は、必ずセブパシフィック航空のプロモチケットで、高くても片道セブ~プエルトプリンセサ間1,000ペソまでのものを取得して行きます。

もしそれ以上高い料金であれば見送り次のプロモチケットが出るのを待ってからにします。

② エルニドへのアクセス

ア 航空便（エルニドへの直行便）

Airswift 機がマニラとセブから毎日運航しており、運賃は片道約6,300ペソです。

イ チャーター便（やや高額）

ミニロック、ラゲンリゾート、アマンプロ等の高級リゾートへ行く場合はマニラから専用の小型飛行機（シーエアー等）が運航していますが値段はかなり高いようです。

ウ 航空便（プエルトプリンセサ経由）及びバン又はバス

航空便で一旦プエルトプリンセサへ行って一泊し、翌朝バンに乗ってエルニドへ行くのが一般的です。

バンはバスより料金が少し高く一人当たり450ペソ～700ペソですが、トイレ休憩、食事のためレストラン等で停車する以外は停車せず直行しますのでバスより1時間位早く到着しますからバンがおすすめです。

バンの値段に幅があるのは、バン乗り場から乗ると詰め込んで無茶苦茶飛ばしまくって行く車がありそんな車は、スリルを味わいたい方以外にはお勧めできません。

宿に頼んでバンを手配してもらえば料金は高めですが、ほぼ予定時間通りに宿まで迎えに来てくれ、かつ安全にエルニドまで連れて行ってくれます。

プエルトプリンセサからエルニドへの所要時間はバンでトイレ休憩等を含め5～6時間です。

エルニドからプエルトプリンセサへ戻る時もその前日早めに宿へお願いしてバンを手配してもらえば、やはり時間通りに宿へ迎えに来てくれます。

バスは、プエルトプリンセサのバスターミナルからロロバス、チェリーバス、サンイシドロバス SBETRANS バスがエルニドへ出ていますが利用したことがありませんので詳細不明です。

バスのお勧めは冷房の効いたロロバスが良いとのこと。

●5おわりに

私は、冬4か月、夏3か月半ダバオで暮らしていて、フィリピン各地の綺麗なビーチを求め、バス、ジプニー、トライシクル、ハバルハバル（オートバイタクシー）及びバタバタ（側車付き自転車）での貧乏旅行をするのが楽しみです。パラワンでのバスを見ると、さすがの私も廃車同様のそれも埃だらけの汚いまのバスには乗る気がせず、島内の遠距離旅行はバンを頼んで移動します。

バンはバスよりも飛ばす車が多く同じ冷房車でもキンキンに冷やしているものが多いので、風邪を引かぬようにいつもジャケットを持っていくとともに、安全のためバンを頼むときには宿で手配してもらうことにしています。

宿の手配したバンは、他と比べ乗客の気持ちになって車内の温度を適正に保ち、安全運転する車が多いからです。

パラワンに限らず、フィリピンでの一般的な注意事項ですが、どこでも野犬が多いので注意して下さい。

街の中でうろつく野犬は触ったりしなければ相手も気に留めていませんのでまずは安全です。

それと蚊に刺されないように注意してください。

刺されて高熱がでた場合は Dengue 熱の可能性があるのですぐ病院で治療を受けてください。

蚊対策は、「OFF」という塗り薬を手足に塗っておくと3時間は蚊が寄ってきません。

なお、プエルトプリンセサもエルニドもホテルは沢山あり料金も他の都市とほとんど変わりません。

プエルトプリンセサの宿は、格安のペンションハウスが1,000ペソ前後で沢山あります。

安くても小奇麗にしていますので、私はいつもペンションハウスを利用しています。

ではどうぞ、旅行するときには健康に気を付けてご安全に旅をされることを祈念します。

ASEANの医療制度とセルフケア

JCHO 東京新宿メディカルセンター（旧東京厚生年金病院） 内科部長 溝尾 朗

●皆様はじめまして、JCHO 東京新宿メディカルセンターの溝尾と申します。私は、1998年から2001年までシンガポール日本人会診療所医師として勤務した後、東京の病院の旅行外来において、海外渡航者のためにアドバイスを提供するとともに、ロングステイ財団や旅行医学会を通して、アジアの海外医療に10年以上関わっています。

本稿では、ロングステイヤーが海外生活で感じる不安を軽減するための医療上のアドバイスをお伝えしたいと思います。

●ロングステイ財団が毎年行っているアンケート調査によると、海外ロングステイヤーが不安に思うことは、①治安、②医療、③言葉です。実際に、INSTITUTE for ECONOMICS & PEACEによる治安調査¹⁾やWHOによる医療制度調査²⁾では、日本はアジア諸国の中で唯一10位以内と高く評価されていますので、他のアジアの国で生活するとなると、治安や医療に不安を感じるのも仕方がないことだと思います。さらに日本と異なる医療制度が、不安を増加させます。そこで、医療制度の違いを理解した上で、医療への不安をどのように克服するかを、今回のテーマといたします。

●タイでは国民皆保険制度はありませんが、30パーツ（約100円）制度という、全国民が安価で利用できる保険制度が2002年に導入されました。しかし、あまりに安いため、多くの民間病院はその保険制度と契約せず、非常に混雑している公立病院に利用がほぼ限られています。マレーシアも国民皆保険制度はありませんが、公立病院での診療費は一般医の診察料は1RM（約25円、外国人は15RM）、入院費1日3RMと、とても安価で受けられます。ASEAN最大の国インドネシアでは、2014年JKN（国民医療保険）

という全国民（6ヶ月以上インドネシアで働く外国人を含む）を対象にした公的医療保険制度が始まりました。月給の数%の保険料ですべての医療が、家族を含めて受けられるという素晴らしい制度です。現在適用範囲を順次拡大している段階ですが、今後財源不足、需要増にともなう医療資源不足などのため、医療の質の低下につながるものが懸念されています。このようにほとんどのASEANの公立病院では、安い費用で医療を受けられますが、患者数の多さと医療人材資源の乏しさのため、とても混雑しておりサービスも良くありません。したがって、中間層、富裕層、外国人の多くは、サービスは良くなりますが高額な民間病院を利用しているのです。つまりASEANに住んでいる外国人は、安価ですが、低いサービスと長い待ち時間を覚悟して公立病院へ行くか、あるいはサービスが良く待ち時間は少ないのですが、高価な民間病院に行くかのどちらかを選択しなければなりません。一方、日本では皆保険制度と高額療養費制度のおかげで、全国民が水準の高い医療を、比較的安い費用で、どこの場所でも受けられます。さらに、ASEANの民間病院の多くは、一定の制限がありますが診療費を自由に設定でき、また株式会社が経営しているため、一部の医療をビジネスとしても行っています。そのため、過剰な診療が行われやすいと言われています。

このような医療事情の中で、私がロングステイヤーに勧めることは2つあります。緊急の場合を除き、手術などを勧められた場合には、セカンドオピニオンを求めること、かぜや下痢症などの軽症の病気であれば、自分の判断で治療やケアを行うことです。幸いなことに、アジアの多くの国では、



タイの薬局



インドネシアの薬局

検査結果やカルテは患者に属するものという考えがあり、セカンドオピニオンを断られることは少ないと思います。また、抗生物質など日本では処方箋が必要な薬が、市中の薬局で、処方箋なしで手に入ります。

かぜの症状で抗生物質が必要かどうかを判断するのは、簡単ではありませんが、発展途上国で発症した下痢（旅行者下痢症）の80~90%は、細菌感染症とわかっていますので、1日5回以上の下痢、38°C以上の発熱をとまなう場合は、抗生物質を使います。Levofloxacin（商品名CRAVIT）やCiprofloxacin（商品名CIPROBAY）が以前からよく使われてきましたが、最近タイなどでは耐性菌が増えたため、Azithromycin（商品名ZITHROMAX）の方が良いと言われています³⁾。その他、さまざまな薬が売られていますので、主治医と相談しながら、うまく利用している人もいます。もちろん、薬の副作用やアレルギーには十分な注意が必要で、もし発症した場合には自己責任となります。

●アジアで日本ほど医療制度が整備されている国はありませんが、その国特有の制度をうまく活用して、ロングステイを楽しんでください。

溝尾 朗（みぞお あきら）

- JCHO 東京新宿メディカルセンター 内科部長
（旧東京厚生年金病院）
- 一般財団法人 ロングステイ財団 顧問医
- 日本旅行医学会 監事
- 日本内科学会認定内科 専門医
- 日本プライマリケア学会認定 指導医
- 千葉大学医学部 非常勤講師



【参考文献】

- 1) Global Peace Index 2015, INSTITUTE for ECONOMICS & PEACE
- 2) MEASURING OVERALL HEALTH SYSTEM PERFORMANCE FOR 191 COUNTRIES, WHO 2000
- 3) CDC Health Information for international Travel 2016

佐々木一信さんを偲んで

ダバオ支部長 No.1261 藤本 晴久

1月18日早朝、私はダバオ近郊カリナンで人と待ち合わせをしていたところ会員の方から佐々木さんが倒れられ、そのまま救急車で病院に搬送されたとの連絡を受けました。それから30分後に一緒に病院に向かわれた方から懸命の蘇生処置も虚しく帰らぬ人になられたとの連絡がありました。知り合いとのミーティングをキャンセルして病院に向かいましたが既にご遺体は安置室に移動されておりました。そこで佐々木さんにお会いし、今までの感謝も含め手を合わせて頂きました。

思えばダバオにおこしになられた当初いつもビニール袋に子供用のゴム草履を入れて持っておられるのを不思議に思い『何でゴム草履をいつもお買い求めておられるんですか?』とお尋ねしたところ『ホームレスの子供に会ったら裸足だったんで可哀想なんでゴム草履を買ったんですがホームレスなので連絡がとれず、いつ会えるかわからないんで持って歩いてるんですよ』と微笑みながらのご返事に何と情の深い方と驚いたものでした。ただそれはその後の佐々木さんのご活躍を暗示するものでした。

以降、経済的に恵まれない大学生のサポートを始め、貧困エリアの幼稚園児のサポート



この写真は偶然通りかかれた佐々木さんをカメラマンの前沢さんが撮影されご遺影に使用されたものです。

(フィリピンでは幼稚園に入れないと小学校に進学できません)、日系人の小学校日本語教育のサポート、山間部の学校への薬配布、年に1回はお腹いっぱい食べてもらおうと炊き出し等“子供を笑顔をする”事に奔走されました。20日のお葬式にはまさにそれらのご活動を表すようにミンダナオ国際大学イネス学長をはじめ学生の皆様、八木学園の先生、生徒の皆さん、JPVA（ジャパンフィリピンボランティア協会）の関係者の方々、お世話されておられました南国暮らしの会ダバオご滞在の方々などが多数参列されました。柩を囲みすすり泣く子供達を天国から優しく微笑んでいる佐々木さんが目に浮かぶようでした。



葬儀には多数の子供達が参列頂きました

日頃から私が死んでも『葬式無用ですよ』とおっしゃられておりましたが『何十年教職を務めた方でも大好きな子供達に囲まれたこんな素敵なお葬式にはなれませんよ!そうでしょ?佐々木さん』とお話しました。以前のご職業は教育に全く関係がなかったとお聞きしましたが日本から遥か離れたダバオの子供たちにこれほど慕われた姿を見て佐々木さんのダバオでの人生は何と色鮮やかだったのかと羨ましく思いました。暖かい南国で今までの人生で出来なかったことを存分にするまさに“南国暮らしの会の最高の目標”を達成されたんですね。21日出棺、子供達による“佐々木先生ありがとうございました”の歌と



佐々木さんを偲んでサロン会で思い出を話しました。感謝の言葉のビデオが流れるなか最後のお別れ、火葬と滞りなく終了しました。

倒れられてから葬儀終了までお手伝いご協力頂きました JPVA 網代顧問、八木会長をは

じめ JPVA の職員の皆様、ハローワールド町田様をはじめ職員の皆様、JPVA サロン大橋代表をはじめメンバーの方々、南国暮らしの会の 大野理事長、本部との連絡をサポート頂きました会員の方、ダバオご滞在の会員の方々にこの場をおかりしまして感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

お電話を差し上げた時『ご苦勞様です佐々木ですう』この言葉を聞けない事は非常に辛いです。

安らかにお眠りください。合掌

佐々木一信氏を偲んで

ダバオ滞在 No.1342 中富 豊美

佐々木氏の訃報を聞いたのは1月18日の朝でした。あっという間の出来事で、いまだに信じられない気持ちです。氏は常々ダバオで生涯を終わると明言していました。死因は生前の彼の希望どおり、長患いもせずの心筋梗塞でした。

佐々木氏は日本語の教師としてトリルの小学校へ週に2回1時間以上の道のりをジブニーを乗り継いで通っていました。大學の日本語学科講師としても教鞭をとり「大学の先生になるなんて、日本では考えられないよ」と言っていました。又、山の学校(貧しさの為、満足な食事もとれずに生活している子供たちが通う学校)の生徒たちの炊き出しにも参加していました。貧しい家庭の子供の里親にもなり学費や生活費の援助もしていました。

葬儀は1月21日に執り行われ多くの日本人やフィリピン人が参列しました。子供達も沢山来ていました。貴方が育てた里子も来ていましたよ。沢山の花に囲まれた棺は南国特有の甘い香りに包まれていました。遠くの日本

から、マニラからお花が届きました。1泊2日でセブから焼香に来られた方もおりました。

この世に生をうけたものには必ず終わりがあるものです。残念なことに誰もが自分の死亡する日を決める事が出来ないのです。氏は生前、もし自分でその日を決める事が出来るなら、残りの人生をより有意義に過ごすことが出来、心穏やかにその日を迎える事が出来るのにと言っていました。

あなたの人生におけるハイライトはなんだったのでしょうか？小学校の生徒とのふれあいでしたか？炊き出しでお腹がいっぱいになった子供たちの笑顔に出会った事？里子がオール A をとった時の喜び？それともダバオでの暮らしそのものだったのでしょうか？

あなたとの思い出はダバオの風のようにある時は優しく穏やかに、時には激しく私たちの心の中にいつまでもとどまっていますよ。

さようなら

支 部 便 り

北海道支部便り

No.1285 桂 裕章

○バリ情報交換会（反省会）

・8月21日にサロン会を開催。出席者20名
6月～7月にバリで北海道支部の第2回目的「お試しロングステイ」を実施しました。この旅の参加者は12人。

なお、この企画実施に当たっては、役員の佐藤真理子さんと北川博敏さんからご協力、支援を受けました。



○秋のサロン会（例会）の開催

・10月2日
札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2・7
出席者 23人

○サロン会に併せて、支部の会員の「ロングステイ・アンケート」（2014年に次いで2回目）も実施。

・回答数 32人
・会員の今後のお試し（この指とまれ方式）
ロングステイの希望地については、ベトナム、マレーシア、ニュージーランド、オーストラリア、タイ、フィリピン（多い順に）などとなりました。

その他のアンケート結果の明細については、省略。

○新聞の掲載記事について

28年7月まで一年半にわたり、北海道新

聞に掲載されたもの。

支部会員8名のロングステイした体験談（東南アジアからカナダまでの8か国、10都市）の掲載記事です。

これらの記事は、南の会のホームページにも「南国便り」・「マスコミ掲載記事」（HP表紙の左側、中央部分）として同じものが載っていますので、どうぞご覧ください。

東北支部便り

支部長 No.1027 佐藤 周司

室内で過ごす時間が長かった冬季、いつの間にか暖かい陽気に誘われて屋外に出歩く機会が増えた早春、行楽、アウトドア、花見シーズンの到来！！

29年度支部活動は4月末に、とある温泉にて1泊2日で、総会、情報交換会、日帰り観光、軽スポーツ、懇親会（カラオケ）時間をフルに使い、各自の発表で新しい発見があり…。ワクワクするものと、今から楽しみです。

次回の夏、秋季号には情報交換会の報告等を掲載したい。

以下は私の散文です。

- 1 毎年行っている東北地方花見の名所（私見）地元の福島県では花見山公園で、日本を代表する写真家、秋山庄太郎氏が『福島に桃源郷あり』と毎年訪れていた場所で数種類の桜、梅、レンギョウ、ボケ、サンシュユ、モクレン、花桃等の花々がいっせいに咲き競います。まさに桃源郷の言葉に相応しいところ。
- 2 白い鶴が舞い降りたような美しい姿の鶴ヶ城、会津若松のシンボルで、城を中心に1,000本以上の桜が咲き乱れ、壮観な眺めです。

3 秋田県角館（みちのくの小京都）と言われ古い造りの屋敷、国の天然記念物に指定された150本の枝垂れ桜が江戸時代から長く続く町並みを彩ります。

4 青森県弘前城公園、弘前公園内には江戸時代の街並みが再現され2,600本のソメイヨシノは日本一と、いわれる、散った花びらがお濠を埋め尽くして、できる桜のプールは言葉を失う美しさ。いずれの場所も違った魅力を秘めている。

今年も最適な時期を見はかり1泊2日の予定で回遊したい。

皆さんも是非、東北の桜名所の数々をご覧ください。



山登りの会

関東甲信越支部便り

No.1607 阿部 滋敏

関東甲信越支部の活動状況を紹介します。

◆11月サロン会

日時：11月23日（水・祝）13:00～16:40

場所：東京都南部労政会館 第5、第6
会議室

参加者：68名

テーマ

1. 「Our longstay in Scotland and London」

No.1225 高橋 順子

スコットランドのエジンバラフェスティバルと全英オープンで有名なセントアンド

リュース・オールドコースでのゴルフ、ロンドン市内観光の体験談

セントアンドリュースはゴルフ発祥の地で永年の念願が叶った。キャディーはスマホの翻訳ソフトを使って日本語で指示を出してくれた。

ロンドンバッキンガム宮殿は8、9月は女王が避暑で不在のため見学ができた。

全体的には歴史の重みを感じた。紳士の国で車の運転マナーが良いと思っていたが、移民が多くそうでもなかった。イギリスのユーロ離脱で円高の恩恵を受けたのではと皆に言われたが、費用の決済はその前の1月に済ませていたので、全くそういうことはなかった。ダメ元でいろいろ要求してみたが結構要求が通った。

2. 「クアラルンプールの最新情報」

No.1682 守田 章

今回たまたま2013.3からKLにおられる守田支部長が帰国されていたので

- ① KL支部の紹介 支部の沿革、主な活動
- ② KLでの生活 日本人会、ゴルフ、TV・情報、交通事情、物価
- ③ トラブルを避けるには スリ・ひったくり、タクシー利用、病気への備え、テロ情報について報告して頂いた。

支部は2014.8に再開し、会員は11名である。

日本人会が活発で、サークル活動も盛んである。本を借りるためにも会員であることが必要で、加入している人も多い。

車の運転マナーは悪く、方向指示器と反対方向に曲がる人もいるので要注意。

トラブルを避けるにはブランド品を目立つように持たない、常に周囲に目配りを、車道を歩くとひったくりに遭いやすい。

病気では下痢、食中毒、デング熱、ジカ熱、エアコンによる風邪に注意すること、など、いろいろと参考になる情報提供をして頂いた。

3. 情報交換会

4グループに分かれて、情報交換を実施した。

4. 懇親会

場 所：「ロオジ」ゲートシティ大崎ウエストタワー地下1F

参加者：49名

◆12月サロン会

日 時：12月25日（日）13:00～16:30

場 所：東京都南部労政会館 第5、第6会議室

参加者：80名

テーマ

1. 「タイ国最新のロングステイ事情」 タイ国政府観光庁マーケティングマネージャー

藤村 喜章 講師

「タイで長期滞在」をテーマに、ロングステイについて新しい情報と観光庁として推薦されている12の秘宝都市の紹介があった。また、タイランドエリートカード8種類の情報も頂いた。

2. 「沖縄ロングステイへの道」

No.670 今野 力男

セブ、チェンマイは暑くて遠いので最近では台湾や沖縄に関心が移った。

沖縄は物価が内地の2/3程度で台中と同じくらいである。

- ①沖縄の気候、賃貸窓口（鍵の受渡、オリエンテーション等）
- ②滞在施設について（建物は？部屋は？生活設備は？等を映像で）
- ③施設周辺環境（スーパー等の商業施設、医療施設、景観、公園）
- ④滞在費用について（部屋代、物価等）
- ⑤スポーツ施設（ゴルフ場、体育館、卓球場、シュノーケル等・釣り）
- ⑥施設へのアクセス（飛行機、モノレール、タクシー、バス、レンタカー等）

の紹介もあり、5月には支部の「この指とまれ」でも検討したいとのことであった。

3. 「ロングステイフェア参加報告」

No.1207 宮原 正宇

2016.11.26に開催されたロングステイフェア2016に南の会として参加した。

当日の出展活動結果の報告やタイ国政府観光庁主催セミナー「タイで楽しく長期滞在しよう」で島林会員がパネラーとして活躍されたこと、さらにタイにおける10年ビザの発行制度発足のニュース等について報告があった。ボケ防止には旅行がベストという話も印象的であった。

4. 情報交換会

4グループに分かれて、情報交換を実施した。

5. 懇親会

場 所：「ロオジ」ゲートシティ大崎ウエストタワー地下1F

参加者：59名

◆1月サロン会

日 時：1月22日（日）13:00～16:30

場 所：東京都南部労政会館 第6会議室

参加者：37名

テーマ

1. 新年挨拶ならびに「長期滞在型・ロングステイ観光学会」と「日本版CCRC二地域居住先進自治体市長サミット」に参加して

大野理事長

- ①海外での長期滞在と国内の長期滞在施設や環境などとの比較
- ②先進自治体の紹介
「二地域居住体験事例」No.80 阿部 功
北海道浦河町での体験をもとに
- ①浦河町と物件の紹介
- ②道内体験移住の窓口と経験例
- ③キャンプ→体験移住
- ④移住留意点（気候・設備・交通・触れ合い・医療）

などのお話がありました。特に浦河町はすぐ近くが海で9月10月11月は鮭が釣れるので釣りの好きな人にはお勧め、また4、5月は山菜採りが行われるとの事。馬の場も多く乗馬もできるので色々な楽しみが豊富であるとのこと。冬も北海道の太平洋側にある浦河町は雪も少なく大変過ごしやすいくとの事です。

北海道は無料のキャンプ場があるので車でテントをもって出かけるのも良い。冬は南の国、夏は北海道という選択もある。

2. 「イポーでのロングステイ」

No.1660 北村 裕志

イポーに家を購入した簡単な経緯と2014年に家を購入後、6回に分けて約12週間過ごした中での、

- ①イポーについて紹介
 - ②どのように過ごしているか、食事、買い物、温泉など
 - ③家や家具など住宅に関して、今までと今後の予定
 - ④そのほか気付いたこと
- などの話があった。

近くにはメルバレーゴルフ場、温泉などがありゴルフは年間パスを買うと安いとの事。食事もKLより安く中華料理、インド料理、マレー料理などがある。ショッピングもイオンモール、ユニクロもあり便利との事であった。

3. 情報交換会

3グループに分かれて、情報交換を実施した。

4. 懇親会

場 所：「ロオジ」ゲートシティー大崎ウエストタワー地下1F

参加者：32名

- ◆パソコン教室 毎月会員番号60番の渡辺会員にご指導いただいています。
- ◆南国テニス同好会 毎月会員番号1068番の山科会員を中心に楽しんでいます。

東海支部便り

支部長 No.1544 森 幸太郎

1.2016年11月定例会

2016年11月13日(日)「ウィル愛知」で15名が参加して定例会が開かれました。ほぼ常連の12名の他、4年ぶりに定例会に参加された方、体調崩されて久々に参加された方、オブザーバーの方1名を加え、各自の自己紹介および近況報告を行いました。



1.1. アフターロングステイ

南国暮らしの会本部より、国内の施設で次の条件を満たす場所の情報があれば提供して欲しいと依頼があり、会員から三河湾の篠島、佐久島、日間賀島などにそのような施設ができ始めているとの情報がありました。

- (1)「日本の夕日百選」にも選出された篠島



- (2)タコとフグがおいしい日間賀島



(3)青い空と青い海とアートを満喫する佐久島



さらに、国内旅行でおすすめ場所として、氷見などが上がりました。冬の時期、富山県氷見に50件ほどある民宿が1泊1万円ぐらいで素晴らしい料理を出します。

1.2. この指とまれツアー

- (1)11月28日から10日間ダバオ確定。
- (2)2017年6月11日出発コペンハーゲン・サンクトペテルブルグに停泊！

「麗わしの北欧バルト海6か国周遊クルーズ」12日間募集中。

1.3. お帰り報告・お出かけ情報

上海蘇州3日間の旅から帰国、お出かけ情報としてダバオ、チェンマイ、KL、コロンボ、ハワイ。

1.4. ウィル愛知フェスタ参加について
打合せ

1.5. その他

- (1)脊柱管狭窄症の手術をするなら、安城の八千代病院（脳神経外科）が良い。
- (2)東海フリーメールの使い方に制限があり、ファイルは添付できません。もし写真とかみんなに見てもらいたい文章とかありましたら、<http://yaplog.jp/n-tokai/>（東海支部の活動状況が見られるブログ）に載せて見てもらえます。

(3)年忘れ健康麻雀大会日程紹介
定例会終了後、太閤本店・主税町店で懇親会が開かれ、アメリカ大統領選挙、バギオの話などで盛り上がりました。



2. 「ウィルあいちフェスタ2016」

2016年11月26日午前に参加してきました。昨年と違って盛況でした。

終了後来訪者とともに「太閤本店主税町店」で昼食を取り夢を語り合いました。

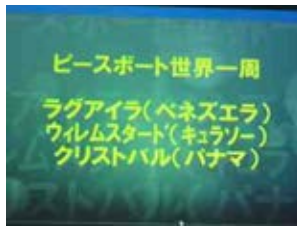


3. 「南の会マスターズ」ゴルフコンペ

秋晴れの11月10日（木）、名古屋広幡ゴルフコースにて、オープン参加の方を含め11人のプレーヤーが今シーズンの最終の覇を競い合いました。競技を終えていつものように和やかな雰囲気のパティーにて親睦と来季の健闘を誓って楽しいコンペを終えました。

4. 2016年12月定例会

2016年12月11日（日）、ウィル愛知で19名が参加して定例会が盛大に開かれました。11月26日（土）の「ウィル愛知フェスティバル」報告があり、会員7名参加、ゲストは数十名で昨年に比して大幅増でした。お帰り報告では、沖縄県コンドミニウム情報（クロクマハウス）。問い合わせ先090-6713-5885 与那原町東浜他数軒あり。1泊1部屋6,500円～7,000円、10泊・1か月単位の宿泊設定もあります。ピースボート地球一周の報告で、今回は南米・ベネズエラ、キュラソー、パナマを紹介。いずれも貧しい国ながら、子供たちは熱心に勉強していることが印象的。カナダも紹介。



フィリピンダバオ下見ツアーの報告。町はきれいに掃除が行き届き、安全も確保されていて快適であった。気温は30度以上になるが湿気はあまりなく予想以上に良かった。1LDK 日本円で5万円ぐらいが相場。



お出かけ情報でKL、コタキナバル、バンコク、チェンマイ、沖縄、台湾。寒くなるとKLやチェンマイに出かける人が増えます。チェンマイの最新情報を知りたいという話がありました。

5.2016年12月サロン会

2016年12月19日(月)サロン会が「メルパルク名古屋」で15名が集まって賑やかに行われました。



ピースボート地球一周、台湾、チェンマイや北海道の楽しい経験談や、これからの計画などで話が弾みました。終了後、話足らずに近くの喫茶店で時を過ぎるのを忘れて話し込んでしまいました。

ピースボートで再来年に地球一周してみたい。北海道はどこも良いが、今回は浦河町で

魚が美味しく釣りや乗馬ができてよかった。チェンマイに一月から行く予定で、今回は名古屋でのビザ申請料金4,500円が無料だった。台中の「振英会館」は一週間一万元であり、誘い合って行ってみませんか？ニュージーランド20日間30万円/人(現地集合)で、南島の方が見所は多い。沖縄・石垣島での滞在先は民宿・ホテル・ペンションなどのうちどれが良いか？など。

6.2017年2月定例会

2017年2月12日(日)「ウィル愛知」で14名が参加して定例会が開かれ、終了後9名が参加して懇親会が太閤本店で開かれました。

6.1.29年度4月からの支部体制(支部長、副支部長、総務、催事、会計、女性部長候補者)について討議。

6.2.東海支部オールドフレンズクラブ創設について

主旨：会員番号が若い会員(南の会創設当時に近い会員の方々)は南国暮らしをやり尽くしたり、年齢による健康問題があるなどの理由で南国暮らしの会を脱退されたり、定例会などから足が遠のいて、現オールド会員は寂しい思いをしている。そこで、お互いが今何をしているかなど近況を語り合い、旧交を温める場所や時間を作りたい。

今後の予定：ミニサロン会の形で、1回目のオールドフレンズの集まりを実施してみる。

6.3.来年度東海支部運営の討議

- (1)平日サロン会でも議題やテーマが欲しい。
- (2)定例会に参加してお互いの情報交換をするのがベストだが、参加できない会員も東海メールを利用して、それぞれの自分の持っている情報をもっと会員の皆さんに発信してゆくのはどうか。(自分が旅行している場所について。面白そうな地域情報についてなどなど)

- (3)チェンマイ下見ツアーを7月頃
- (4)北海道ロングステイ予定の前田さんの畑見学・北海道ツアーを9月頃
- (5)スマホを利用してラインの使い方の勉強会

6.4. お帰り報告・お出かけ情報

- (1)写真や動画を使って北海道・上海・沖縄報告。
- (2)チェンマイ最新情報
チェンマイでの衣食住、ゴルフ場情報、タクシーのUberシステム導入、チェンマイ空港のラウンジ情報、スマホのテザリングの利便性など
- (3)お出かけ情報では、台中、ハワイ、オーストラリア、沖縄・久高島

以上

チェンマイ支部便り

支部長 No.239 伊藤 寛

チェンマイ支部のハイシーズン（11月から2月）は、例年と同じ130名以上の会員の方が訪れ賑わいますが、当然諸外国の方や、バンコク方面からのタイ人の観光も増え活気づきます。寒い韓国でも仁川空港からチェンマイへのアクセスが良いので、避寒とゴルフ、観光と、ショートステイ、ロングステイがブームになっていると、韓国人から聞きました。

今までも見られた傾向ですが、短期での滞在が主流になってきていることと、ロングステイヤーの高齢化、日本への帰国が引き続き増えることによって、会の運営も大きく変化せざるをえないのではないのでしょうか。

チェンマイ支部で始めた日本の支部担当窓口の活動が、この時期に集中していることもあり、まだまだ偏りはあるものの活発に活動していただいていますので、活動内容の情報を共有して、今後活かしていきたいと思っています。



12月サロン会ドゥアンタワンホテル

日本のサロン会で情報は得て来られることと、気候が良く、治安が良く、価格の交渉をほぼ必要としないチェンマイは、多くの滞在者をすんなり受け入れてくれますが、快適な分、今までになく行動的になり、体調を崩され病院にお世話になる方、事故に遭われる方も多くなっている事も事実です。基本的に自己責任とは言いますが、いざと言う時に対応も必要になります。今、チェンマイ支部では、緊急時の日本への連絡先や、英語、タイ語併記の個人カードを財布等に入れて置いて頂けるよう、他の団体を参考にしながら、作成の検討に入りました。

このような運営を支えていただくために、役員、支部窓口の方が頑張ってくださいますが、来期もこのままの体制でご協力をいただく運びになりました（役員、支部窓口の方のメール、タイでの電話番号は、チェンマイ連絡掲示板でご確認ください）。ただし、いざという時の個人レベルでの交友関係信頼関係と保険は、海外生活では必須条件です。今期の事例では、体調不良での病院の診断が加齢で、カード保険が使用できないケースや、今まで病院の配慮で、カード保険の対応にしてくれていたものが、使えない場合も想定されます。

運営面では、全体のサロン会は年3回、暫定ですが、8月4日（金）12月20日（水）2月1日（木）昼：グランビューホテルビュッフェ
●ゴルフコンペ年2回：8月、2月開催。森田さんが担当してくれていますが、メインのゴルフ場のゲストが今期から会員1名につき2名までに変更になりましたので、ゲスト扱

いけない場合もでてきますが、その場合ビ
ジター料金でのプレーになりますのでご了承
ください。

ゴルフ申し込みの手順：お出かけ情報や、
森田さんにメールにてゴルフを事前に予約す
る場合は、3回までの受付で、その後は、チェ
ンマイについて参加された時に専用ノートに
書いて申し込みの仕組み、再度ご理解くださ
い。掲示板または森田さんへタイの携帯番号
を必ずご連絡お願い致します。

初めての方は、お出かけ情報にその旨記載
してください。参加される会員の多い時期は、
お互い譲りあい参加をお願いします。キャデ
ィチップの最低金額は、ランナーゴルフ場だけ
まだ250バーツですが、他のゴルフ場は、
最低300バーツ以上になっています（キャ
ディフィとは別で、良い悪いに関係なく直接
支払う最低金額の目安です）。また、乗り合
いの車の手配が難しくなっていますので、何
回も来られている方は、足の確保も併せてお
願いします（ハイシーズンのみ信頼の置ける
運転手の複数確保が困難な為）。

イミグレーションへの提出書類の TM30
が、徹底されるようになりました。入居者が
チェンマイへ到着後24時間以内に家主はイ
ミグレーションへ届け出の義務が発生し遅れ
ると罰金が科せられますので、提出が遅れた
場合は個人負担のケースも出ています。ホテ
ルは提出を求められますが、外国への旅行後
や、入国後は、必ず、事務所や、家主に入国
カードとパスポートを届け出てください。

チェンマイでの生活について、住居はロー
シーズンは空部屋も多く予約も必要ないくら
いですが、集中する季節は、事前の予約と予
約金を入れておくことが重要です。物価は引
き続き値上がり傾向、観光客の増加や生活レ
ベルの向上により、おしゃれな店が増えてき
ていますが、相変わらず、ついこの間まであ
った店がもうないという現象は同じです。観光
については、外国の観光客の増加だけでなく、

タイ人の観光客も増えていますので、有名な
ところでは入場制限もありますので、どうし
ても行ってみたいところは、要チェックなこと
と、国立公園関係は、タイの免許証を持って
いれば割引になるという以前あったメリッ
トは全く無くなりました。一部お寺も入場料が
発生しているようです。

タイは仕組みや制度が連絡もなく変更され
たり、担当者や場所によっても対応が変化す
ることが当たり前になります。他の人がう
まくいった事例が自分にも同じように与えら
れると思っではいけない国です。会員同士に
情報を心がけましょう。

会報が発行される頃には、一番空いている
梅雨の時期になります。会員の方の滞在は少
なく交流も限られますが、果物も美味しく多
く出回り、空気もきれいで、ゴルフ場、観光
地も空いている快適な季節です。是非この季
節を体験されては如何でしょうか。

第11回南国暮らしの会 チェンマイゴルフコンペ

2/14 バレンタインの日に南の会チェンマ
イゴルフコンペを開催しました。

今回の参加者は49人でした。



ゴルフコンペ表彰会場・ランナーゴルフ場
レストランホールインワン

【コンペ結果】		グロス	ハンデ	ネット
優勝	佐藤勝治	87	16.8	70.2
2位	中西岩夫	101	28.8	72.2
3位	平山謙祐	98	25.2	72.8

女性優勝 宮原美喜子

ベスグロ 佐藤勝治 87



中央が伊藤支部長 向かって左、女性優勝 宮原 美喜子さん。右、男性優勝 佐藤 勝治さん

ペナン支部便り

No.1630 菅野 純

2月27日にペナンを離れ、28日より2ヶ月弱の予定で帰国しており、日本から投稿させていただきます（ペナン出発時は30度越えて成田着時は2度で、覚悟はしていたものの、寒さに耐えながら過ごしております）。

前号では、昨年10月末迄の活動報告をさせていただきますので、その後の活動を簡単にご報告致します。

12月 3日 役員会開催～今後の活動計画について 他

12月15日 サロン会開催～3D Seafood Restaurantにて

1月 7日 役員会開催～今後の活動計画について（主にゴルフ会開催）

1月23日 ゴルフ会開催～13名参加各自Rm25 拠出して全員賞品授与
久々のゴルフ会で、皆さん、プレー、表彰式を大変楽しめました

2月 8日 サロン会開催～ Jade Palace Seafood Restaurantにて

来ペ中の関東甲信越支部の青木様もゲスト参加

今迄、何度かペナンの住宅事情についてご紹介して参りましたので、今回はゴルフ事情について、ご紹介致します（趣味として、一番多くの方々が楽しまれペナンに来て初めてゴルフを始められた方も多いです）。

日本と同様にクラブの正会員になる方もおりますが、多くの方々はSSGカード会員と言う、1年毎の更新（Rm330）で、数コース利用可を利用される方が多いです。勿論、ビジター利用の方もおられます（SSGより2～3割程割高です）。

プレーは平日であれば、余程の大人数で無ければ予約は不要で、チェックインの順番で、待ち時間も無くスタート出来ます。通常のコンディションであればコース内へのバギー（二人乗り）乗り入れ可能で、18ホールスループレーです。

料金はSSG会員でRm70前後です（この1～2年で2～3割、値上げしています）。

朝、数人で車に乗り合わせ、それからプレーするコースを決める事もありコースに着いたら、チェックイン時に料金を先払いして、バスタオルと洗濯物入れ袋を受け、ロッカーに入れ、直ぐにスタート出来ます。OBは殆ど有りませんが、フェアウェイを外れると、ロストに成る事も度々有ります。プレー中にコース内でオートバイに乗ってロストボールを売りに来る人によく会います。

ビニール袋に10個入りでRm10dで売ってます。スタート時間にもよりますが、スループレーなので、13時前にはシャワーを浴びて帰れます。日本と違う点は湯船は無く、又、お湯が出ず、水だけのシャワーの所も多く有ります。

シャワーの後は、ゴルフ場を出て、帰宅途中で、軽く食べて帰る方も多ようです。ゴルフ場は、ペナン島内にも有りますが、料金が高めな為、マレー本島にフェリー又は橋を渡り、1時間～1時間半で行ける距離に有ります。予約不要で低料金なので、週に数回プレーされる方も多ようです。冬場の1、2月は日本に近い、寒い外国の方々が団体で来られる方も多く、それだけが悩みの種です。

コース内は日本と比べ、整備は今一歩ですが、1人でもプレー可能で、環境としては、

充分と感じます。

是非、皆様も、安いプレーを楽しみにいらして下さい。お待ちしております。

クアラルンプール支部便り

支部長 No.1682 守田 章

クアラルンプールでは年が明けてからこの方、雨降りの多い日々を迎えています。日本と違い四季の無いこの地で過去の記憶を辿るのも難しい（老いのせいかもしれません）のですが、季節がずれて来ているのではないかというのが大方の感想です。地球規模の気候変動なのでしょうか。

KL支部も変動がありました。一昨年から移住や日本への帰国で徐々に会員数が減ってきましたが、積極的な勧誘活動を行い、入会予定者を含めて4家族が新たにメンバーに加わりました。支部活動が活性化されることを期待しています。

1月26日に恒例の新年会及び第2回ゴルフコンペを開催しました。

ゴルフコンペは第1回に引き続き「Staffield C&R」で開催。参加者12名が2組に分かれて総グロスで競う紅白戦形式。アイデアマンの松下さんによる組み分けで勝敗の行方に興味を持たれましたが、40ポイントの差がついて呆気なく勝負がついてしまいました。

前回と異なり何とか天気も持ち、申し分ないコンディションのもとで参加者全員アクシデントもなくプレーを楽しむことが出来ました。

新年会は訪問会員の平澤さんを迎えて総勢15名でSteamboatを囲んで開かれました。新しいメンバーも揃いお酒の持ち込みもあって賑やかな会となりました。

Steamboatは一つのテーブルを大勢で囲み顔を見合わせて談笑するには好都合なのですが、真ん中に置かれた鍋を突つかねばならず料理を取るのに大苦勞。闇鍋のようなもの

で何を採ったか食べてみないとわからず、好きだ嫌いだと笑いの種につきませんでした。



話は変わりますが、マレーシアでも交通渋滞は深刻になってきました。原油価格の低迷、中国経済の衰退の影響があり一時の活況感が薄れつつある現在ですが、経済成長率5%前後、車の販売台数60万台前後で近年推移しており経済の停滞感はありません。結果として交通渋滞は年々激しさを増して、通勤時間帯だけでなく日中や夜間でもあちらこちらで渋滞が発生しています。空いていれば15分程度の道のりも渋滞にはまると1時間かかることもざらに起こるようになりました。

政府は対策として公共交通機関の建設を推進しています。3つの鉄道路線が建設中ですが、その内1路線が部分開通をしました。未だ一部区間のため、利用者が少なく道路事情が良くなったようには見えません。しかし、50kmの距離を5～6分間隔で走り、しかも無人運転という近代的な鉄道です。ホームドアも完備され日本よりもシステムが進んでいるように思われます。

この様にして徐々に近代化していく街を眺めていると高度成長期の日本が思い起こされます。



マニラ支部便り

支部長 No.999 中山 恒夫

今年は世界的異常気象の影響か、雨期乾季の終わりと始まりがはっきりしませんでした。さすが、3月に入り少しずつ夏の兆しを感じられます。

フィリピンの経済は相変わらず好調で人々の生活にもゆとりと変化が表れています。

2月末は、フェスタの季節で、地元のハイスクールの生徒が中心のブラスバンドが、フィリピンとは思えぬ洗練されたコスチュームを身にまとい、どこで練習したのかと思えるほど上手に演奏して、各ヴィレッジを回ります。

近郊にあるフィリピン有数の観光地「タガイタイ」では、火山性カルデラ湖の雄大な景色と、レストラン街、アミューズメントパークなどに人々が集まり、大変な賑わいを呈しています。

私たちが住んでいる地区でも、新築住宅の建設が盛んになり、おしゃれなショッピングタウンができ、次々とレストランも増え、それらを巡るのも楽しみの一つです。

残念ながら、南の会の会員は少なく、南の会の例会はできませんが、近くに住む日本人たち、フィリピン人の友人も交えた週1回の食事会、月1回の南ルソンエリアの日本人の集いに参加して、南国生活を楽しんでおります。

皆様のお越しをお待ちしております。

ハワイ支部便り

支部長 No.1439 塩川 亨

2年ほど前から進められていたワイキキ周辺での工事もひと段落つき、渋滞が発生していたワイキキもだいぶ落ち着きを取り戻しているようです。

インターナショナルマーケットプレイスは昨年8月末に竣工しました。ゆったりとしたスペースにステージやソファ、ベンチ、大きな樹木や小川、滝のようなものまで配置され、ワイキキ

散策やショッピングの合間に一息つける癒しの空間となっています。しかしながらお店がすべて開店したわけではなく、またお店も高級店が中心なためか、千客万来とは言い難いようです。3階は飲食店が並び、オープンスペースでの食事は気持ち良さそうですが、ここもお高めなので私はまだ利用したことがありません。

ワイキキショッピングプラザの地下にはかつてフードコートがあったのですが、こちらは「ワイキキ横町」として日本食のB級グルメスポットに改装され、ラーメンや天丼などが食べられます。白木屋や丸亀製麺の繁盛をみると日本食はハワイの定番になっているようです。

クヒオ通りに面したワイキキトレードセンターの改装された2階には「ノードストローム・ラック」が新規開店しました。ここは高級百貨店の誉れ高いノードストロームでの売れ残りと思われるブランド品が、大幅に割引された価格で売られています。奥様方はさぞお気に召されることと思います。

またアラモアナの1階西側には「フードランド」というスーパーマーケットがオープンしました。肉や野菜などの生鮮食品のほかデリも充実していますので、アラモアナでのショッピングの後、買って帰るといった使い方ができそうです。

このようにワイキキ周辺はどんどん変化し、海外からの旅行者を引きつける魅力が増えています。

現在ハワイに常駐している会員はいませんが、支部としての実態は希薄ではありますが、6月は会員の皆様が集まる季節です。たくさんの会員が集まって、楽しい活動をしたいものです。



部 会 伝 言 板

総 務 部 会

担当理事 No.996 歌田 晃一

- ◆ 1. 第 3 回理事会 12 月 10 日 (土)
 - ① 予算進捗報告と来期 (第 20 期) 予算作成の依頼
 - ② 定款第 3 条の改訂要否について
 - ③ ロングステイフェア (11/26) の報告
 - ④ 総会への委任状の電子化の進捗状況
 - ⑤ 平成 29 年度 (第 20 期) 体制について
 - ⑥ その他
- ◆ 2. 第 4 回以降の理事会開催予定
3/18 (土)、4/8 (土)、5/13 (土)
- ◆ 3. 規定・必携編集委員会 2 月 18 日 (土)
・ 定款見直し検討
- ◆ 4. 総会日程決定 5 月 28 日 (日) 午前
いつもの大崎の会場が取れず、田町の会場を抽選申込の結果、当選決定しました。
港勤労福祉会館 (田町駅、三田駅下車)

広報部会

担当理事 No.1207 宮原 正宇

今年 1 月に広報部会のメンバー 4 人全員が、期せずしてチェンマイにシーズンステイのために集結することとなり、そこで最近入会した新人会員やチェンマイ初訪問の会員を中心に、その他在チェの会員にも呼びかけ、広報部会メンバーの企画募集による以下のような行事を実施して新旧会員の交流と親睦を図り、ロングステイの楽しみ方の一端を知ってもらおうべく取り組んだ結果、参加の皆様より大いに喜ばれ、好評であった。

- ※ 1 月 20 日 ボンサーン傘祭り日帰りツアー (参加者 19 名)
- ※ 1 月 22 日 モンチャム山の景観と花畑、苺畑散策日帰りツアー (参加者 17 名)
- ※ 2 月 4 日 チェンマイ花祭り見物 (参加者 20 名)
- ※ 2 月 4 日 ピアノ生演奏付き高級レストランでの夕食会 (参加者 13 名)
- ※ 2 月 17 日 パアイ温泉日帰りツアー (参加者 18 名)

以上



友好団体紹介コーナー

- ★一般財団法人ロングステイ財団
http://www.longstay.or.jp
- ★THE JAPAN CLUB OF KUALA LUMPURKL
(クアラルンプール) 日本人会
http://www.jckl.org.my/
- ★チェンマイロングステイライフの会(CLLクラブ)
http://cll.thaijp.net/
- ★北ルソン日本人会 (JANL)
http://janl.exblog.jp
- ★ワールドステイクラブ (WSC)
http://homepage3.nifty.com/worldstayclub/

南国暮らしの会 支部一覧

2017年5月現在

支部名	会員番号	支部長名	e-mail アドレス
北海道支部	1285	桂 裕章	hiro-katz1743@nifty.com
東北支部	1027	佐藤 周司	shujisato1947@yahoo.co.jp
関東甲信越支部	1607	阿部 滋敏	abe-shigetoshi@d05.itscom.net
東海支部	1601	高島 恵	kankei@outlook.com
関西支部	501	大川 泰永	okawayasuhisa@yahoo.co.jp
九州支部	651	穴見 保彦	yasu325anami651@yahoo.co.jp
チェンマイ支部	239	伊藤 寛	kan_ito_9@hotmail.com
バンコク支部	—		
ペナン支部	1630	菅野 純	Jk700115@icloud.com
クアラルンプール支部	1682	守田 章	akirmori@hotmail.co.jp
マニラ支部	—		
セブ支部	1623	田口 秀男	guccideo@yahoo.co.jp
バギオ・パンガシナン支部	227	斎木 一	saikihajime@hotmail.com
ダバオ支部	1261	藤本 晴久	katorudawann@yahoo.co.jp
ハワイ支部	1439	塩川 享	t.007.shiokawa@jcom.home.ne.jp
ゴールドコースト支部	※ 586	磯崎 興志	iso4549@sirius.ocn.ne.jp

※は支部長代行

編集後記

今回もたくさんの方のご協力を頂き春号を発行する事が出来ました。

皆様に厚く御礼申し上げます。

今回はロングステイにおいて重要な医療について、溝尾朗先生に特別寄稿を頂きました。皆様の旅行の一助になればと思っております。

又、長年にわたりこの会の発展に尽力されましたダバオ在住の佐々木一信さんの突然の訃報に接し、寄稿文を掲載いたしました。皆様と共にご冥福をお祈りいたしたいと思っております。

今後とも会報の充実に向け努力して参ります所存ですので、会員の皆様の情報、投稿等宜しくお願い致します。

編集委員

No.1208 渋谷幸一

No.1640 川野俊次

「南国暮らしの会」から自己責任の徹底！

南国暮らしの会は南国暮らしの情報提供・交換・親睦の場です。これらに基づいた集会・行事・旅行、或いは不動産の購入などについて、個々人の自己責任であることを肝に銘じて判断し行動してください。すべての判断・決定は自己責任です！

(参照：「南国暮らしの会」細則第10条【自己責任の原則】)

【連絡先一覧】

- (1) 会報に関するお問い合わせ kaihoushenshu.iinkai@gmail.com
 - (2) メールアドレスの変更 mail.iinkai@gmail.com
 - (3) 会員関係（住所変更など） kaiin.bukai@gmail.com
 - (4) 経理関係（会費、名刺ロゴマークなど） keiri.iinkai@gmail.com
 - (5) その他一般 home@minaminokai.com
- (メールには要件の他に会員番号、氏名、ご自分のメールアドレスを明記して下さい。)

会報原稿、写真募集期間 年間予定

会報夏秋号	6月1日 から 7月15日迄	会報発行日 2017年9月8日
会報新年号	10月1日 から 11月15日迄	会報発行日 2018年1月10日
会報春号	2月1日 から 3月15日迄	会報発行日 2018年5月11日

原稿募集初日、BBSにて会報担当者名、送信先メールアドレスをご案内致します。

【編集委員】

No.1309	青木 一義	No.1208	澁谷 幸一
No.1207	宮原 正宇	No.1575	吉田 博
No.1640	川野 俊次		

記事の無断転載・複製を禁じます。

発行者 特定非営利活動法人（NPO法人）

「南国暮らしの会」

©minaminokai

理事長 大野 悦子

<http://www.minaminokai.com/>

E-mail: info@minaminokai.com



投稿写真コーナー



チェンマイ支部1月サロン会 グランビューホテル



ペナン支部サロン会



クアラルンプール支部ゴルフコンペ



北海道支部10月サロン会



東北支部土湯温泉旅行



関東甲信越支部12月サロン会



東海支部定例会



マニラ支部懇親会